

問題1

日本の三英傑といえ、織田信長、豊臣秀吉、そして徳川家康公。秀吉は愛知県尾張の生まれ、家康公は愛知県三河の生まれ。それでは織田信長は、今のどの県の生まれでしょうか？

- (1) 愛知県 (2) 岐阜県
(3) 滋賀県 (4) 静岡県

解説

足利将軍家を亡ぼし、新しい時代をこじ開けたのが尾張で誕生(那古野城とも勝幡城とも伝わります)した織田信長です。その信長の最も信頼する家臣であったのが秀吉。また信長がその力を発揮できたのは、21年間にわたる強固な同盟関係を貫いた家康公がいたからでしょう。この、愛知県出身の3人が150年近く続いた戦乱の世を終わらせる偉業を成し遂げたのは、単なる偶然や、目先の関わりからだけできなかったことが、家康公の一生を学ぶことから見えてくるはずです。



織田信長肖像

(ジョバンニ・ニコラオ画/天童市三宝寺蔵) 宣教師ルイス・フロイスのお抱え絵師による精緻な肖像画とされる。

問題2

2年後の2015年は、家康公の節目の法要が営まれる年となります。家康公が薨去して(亡くなって)何年になるのでしょうか？

- (1) 200年 (2) 300年
(3) 400年 (4) 500年

解説

家康公は天文11年(1542)に岡崎城で生まれ、元和2年(1616)に駿府城で亡くなりました。したがって再来年の2015年には400年忌を迎えることとなります。家康公の生涯に深くかかわった岡崎、浜松、静岡の三市では、400年忌の節目に家康公の優れた功績を広く紹介しようと合同で様々な取り組みを行うことになりました。この家康公検定もその取り組みの一環として実施されるものです。この機会に家康公の生き方に多くのことを学びたいものです。



試験開始にあたり激励のあいさつをする静岡市田辺市長(静岡会場)

問題3

天文11年(1542)、家康公が誕生した頃はどうのよう
な時代だったのでしょうか？

- (1) 公家を中心とする律令政治の時代
- (2) 平氏による武家の独裁政治が行われていた時代
- (3) 戦国大名が群雄割拠し、下克上が行われた戦国時代
- (4) 町人文化が開花した平和な時代

解説

応仁元年(1467)に京で将軍 足利義政の
後継者争いから、細川勝元、山名宗全らに
よる応仁の乱が起きました。この乱は10年ほどで
終息しますが、以後、京は荒廃し、将軍や守護大名
などの権威は失墜、世は下剋上戦乱の時代となりま
す。家康公は応仁の乱勃発後75年目、正に戦国時代
の真ただ中に誕生し、その生涯をかけて平和社会
を作り上げていったのです。



応仁の乱(真如堂縁起／京都市左京区真如堂蔵)

問題4

家康公が生まれた頃、戦国大名として活躍してい
た武将はだれでしょうか？

- (1) 齋藤道三
- (2) 豊臣秀吉
- (3) 北条早雲
- (4) 源頼朝

解説

家康公が誕生した天文11年(1542)、美濃
の守護大名 土岐氏を追放し、事実上の美
濃国主に成り上がったのが、織田信長に娘を嫁がせ
たことでも知られる齋藤道三です。したがって、家
康公生誕当時、強大な力を持って活躍していたこと
が想像できます。秀吉は家康公より三歳年長ですか
ら、まだ幼児でした。北条早雲は戦国時代初期の武
将、源頼朝は鎌倉幕府を開いた武将ですから時代が
全く異なります。齋藤
道三は「下剋上」の典型
的な戦国武将として知
られ、一介の油売りか
ら美濃の国主までのし
上がった人物として知
られています。家康
公が駿府で元服をした
翌年の弘治2年(1556)、
息子の義龍に殺されて
しまいました。



齋藤道三肖像(国重文／岐阜市常在寺蔵)
常在寺は齋藤道三以後齋藤氏三代の菩提寺。

問題5

家康公が誕生したとき、まだ生まれていない武将はだれでしょうか？

- (1) 織田信秀 (2) 今川義元
(3) 伊達政宗 (4) 上杉謙信

解説

奥州の覇者として有名な伊達政宗は、永禄10年(1567)に生まれました。家康公が26歳の時、三河全域を統一し、長男 信康に信長の娘である徳姫が嫁いだ年です。大変実力のある武将であったことは良く知られていますが、彼が成人するころには秀吉が天下の実権を掌握し、家康公も臣下の礼を取った時代に入っていましたから、天下を狙うには少々遅きに失したようです。小田原の陣で秀吉に臣下の礼を取ったのが24歳、関ヶ原の合戦時には家康公に従って戦乱の終息期を生き抜き、仙台藩62万石の祖となりました。



伊達政宗騎馬像(仙台城本丸／仙台市)

解答… (3)

問題6

家康公の母、於大の方はどの武将の娘だったのでしょうか？

- (1) 尾張の織田信秀 (2) 刈谷の水野忠政
(3) 駿府の今川義元 (4) 田原の戸田康光

解説

於大の方の婚姻は、岡崎の松平広忠と刈谷の水野忠政の間の政略的な内容でした。尾張の織田氏の領地に接する水野氏は、今川氏に服属する松平氏と縁戚関係を持つことにより、その勢いを牽制したと考えられます。しかし、水野氏と松平氏の関係はこれより以前から深い結びつきがあったことも事実であり、於大の方は広忠の父である松平清康に請われて刈谷から岡崎に嫁がされた自分の母(源応尼一華陽院)と同じ道を歩んだのでした。しかし母は清康亡き後、再び他家に嫁いであり、岡崎城で母娘の対面ということにはならなかったのです。



於大の方像(大樹寺蔵／岡崎市鴨田町)肖像画をもとに製作されている。

解答… (2)

問題7

家康公が誕生した時に、竜神りゅうじんが現れて天まに舞ったという伝説がありますが、その他にも不思議なできごとが起きたと伝えられます。どのようなことでしょうか？

- (1) 岡崎城が大きく西に動いた
- (2) 伊賀八幡宮のハスの花が一斉に開いた
- (3) 大樹寺だいじゅじの阿弥陀如来像あみだにょらいぞうが立ち上がった
- (4) 鳳来寺薬師堂ほうらいじやくしどうの寅年とらの守護神しゅごしんの「真達羅大将しんだら」が消えた

解説

伝説や伝承話はそれ自体事実であったかどうかというのは大きな問題ではありません。その内容から、当時の人々の願いや社会の状況を読みとることが大切なことです。家康公生誕にまつわる伝説などからも、戦乱の世を早く終わらせる強いリーダーの出現を待ち望んでいた様子が伝わってくるようです。これは松平宗家が衰退し、混乱が生じていた状況を表わしているのかもしれない。鳳来寺薬師堂の「消えた真達羅大将」の話は、「鳳来寺由緒書ゆいしょがき」に記されています。参籠さんろうして強い男子の出生を祈った於大の気持ちが伝わってくるようです。



真達羅大将
(鳳来寺薬師堂／新城市)

解答… (4)

問題8

家康公が生まれた頃の、岡崎城を取り巻く状況について、正しいものはどれでしょうか？

- (1) 織田氏おだと今川氏けいがの争いが激化し、岡崎のあずさざか小豆坂で大規模な衝突いぼつが起きた
- (2) 松平氏の力が強大になり、尾張への進出を始めた
- (3) 織田氏おだが三河を支配し、岡崎城の松平氏まつだいらも従った
- (4) 今川氏けいがと武田氏たけだが岡崎城の支配をめぐって衝突をくりかえしていた

解説

尾張の守護代であった織田信秀は、さかんに三河への進出を図り、もともと松平宗家の拠点であった安城城を陥れました。これにより周辺の松平一族の中には織田氏に加担する者も増え、岡崎の松平広忠はほぼ孤立した状態となりました。その状況に危機感を持ったのが駿河の今川義元です。義元は大軍を繰り出して、安城から織田氏を追い出そうとしました。その両者が最初に激突したのが、天文11年(1542)に岡崎城のお膝元ひざもとで起きた「小豆坂の合戦」です。家康公は正に岡崎の危機的な状況の中で誕生したのです。



小豆坂古戦場跡碑(慰霊祭／岡崎市戸崎町)

解答… (1)

問題9

家康公の両親^{ひろただ おだい りえん}と於大の離縁^{りえん}について正しい理由はどれでしょうか。

- (1) 於大は政略結婚^{せいりつけっこん}で知多郡阿久比^{あぐい ひさまつ}の久松氏^{とつ}に嫁ぐことになったため
- (2) 織田信秀^{おだのぶひで}の強要^{きやうよう}で、広忠は信秀の娘と結婚することになったため
- (3) 於大は今川氏のもとへ人質として送られ、今川の武将の妻になったため
- (4) 松平家は今川方なのに、於大の実家が織田方だったため

解説

広忠と於大の婚姻はもともと政略的な色彩の濃いものでした。ただ、刈谷の水野家は以前から松平家との婚姻もあり、於大の父である水野忠政は松平氏との親しい関係を築こうとしていたのでしょう。さらに於大が岡崎に嫁ぐことは、織田方に与しない意思表示であったとも考えられます。ところがその忠政が没すると、後継者の水野信元は織田氏に追従することを決めました。広忠は今川氏に対する忠節の意志を示すためにも、於大を離縁せざるを得なかったのでしょう。家康公はまだ3歳^{おさなご}のヨチヨチ歩きの幼子でした。



椎の木屋敷跡(刈谷市銀座)
於大が離縁後に一時居住した屋敷跡。

問題10

天文16年(1547)、6歳^{ようみょう}の家康公(幼名^{たけちよ} 竹千代)が人質として駿府の今川義元^{おわり}のところに向かう途中、ある武将の計略により尾張の織田信秀のもとに送られてしまいました。幼い家康公を奪った^{うば}武将はだれだったのでしょうか？

- (1) 鵜殿長照^{うどのながてる}
- (2) 武田信玄^{たけだ しんげん}
- (3) 戸田康光
- (4) 水野忠政

解説

家康公は人質として、どのような経路で駿府に向かおうとしていたのでしょうか。様々な説がありますが、新編岡崎市史によれば、数十人の側近と従者を従えて西郡(蒲郡市)の港から船で吉田(豊橋市)に、その後は陸路で「潮見峠」(現在の湖西市とは異なる)に差し掛かった時に、田原の戸田康光(宗光)に襲われたことになっています。戸田康光はそのまま田原の港から熱田に竹千代を送り届けました。田原の戸田氏は吉田城を今川氏に略取されたこともあり、相容れぬ^{あいい}関係にあったからだと言われています。



全久院(豊橋市東郷町)戸田一族の菩提寺。

問題11

家康公が尾張に人質として連れ去られた6歳のとき、織田信長は何歳だったでしょうか？

- (1) 4歳 (2) 14歳
(3) 24歳 (4) 34歳

解説

家康公は人質として熱田の豪族である加藤図書助順盛の元に預けられました。熱田区史によると、慶長8年(1603)、江戸に幕府を開いた家康公は加藤家に140余石の土地を与えており、これは、人質として預けられた時の厚遇に感謝していたものと考えられ、家康公のこまやかな配慮があったもの、という旨の記述があります。また別の記録には、家康公はまず萬松寺(名古屋市中区大須)天王坊に預けられ、後に熱田の加藤図書助邸に……とあります。そのとき、信長は家康公より8歳年上の14歳。信長は既に元服し現在の名古屋城の場所にあった古渡城主でしたから、幼い竹千代を相手に遊んだことがあったのかもしれない。



竹千代寓居跡(名古屋市熱田区)加藤図書助順盛屋敷跡である。



解答… (2)

問題12

織田方の人質となってしまった家康公を取り戻すために、今川義元の軍師 太源雪斎は、安城城(安祥城)の織田信広(信秀の長男)を捕らえ、家康公と人質交換をしました。人質交換の場所はどこだったでしょうか？

- (1) 熱田神宮 (2) 笠寺
(3) 大樹寺 (4) 知立神社

解説

名古屋市南区にある笠覆寺(通称 笠寺観音)には、織田家に捕らえられた竹千代と、今川家が捕らえた織田信広(信長の異母兄)の「人質交換の地」の石碑が平成22年に建立され、ここ尾張国笠寺観音が人質交換の地であることを示しています。一方で、東照宮御実紀には、「今川氏が信長に人質交換の儀を申し出たところ、11月10日に三河国西野笠寺」と書かれており、三河で人質交換が行われたと記録されています。現在の豊田市に西野という村がありましたが、残念ながら笠寺の地名は確認できていません。



人質交換の碑(笠覆寺/名古屋南区笠寺)

解答… (2)

問題13

駿府での人質生活について伝えられているエピソードがいくつもありますが、正月参賀の席で、竹千代(家康公)が義元や重臣たちの前でしたと伝わることは何でしょうか？

- (1) 義元から祝いの酒を勧められて、堂々と飲みほした
- (2) 庭に出て元気良く蹴鞠をはじめた
- (3) 突然縁側に出ると庭に向かって立小便をした
- (4) 宴席の真ん中で突然舞いを始めた

解説

駿府での人質時代のエピソードからは、腕白で屈託のない元気な竹千代の姿が伝わってきます。正月参賀の日、竹千代の耳に入ったのは、敬愛する祖父清康と人質の身の自分との比較でした。勇猛果敢で鳴らした清康の孫らしいところを見せようとしたことがこの行為で、「末は大器ならんと人々は驚嘆した」と伝えられています。近年では人質として駿府に置かれたのではなく、義元が息子の氏真の右腕になるような武將に育てる目的もあったとする説もあるようです。



竹千代の像(静岡駅前/静岡市葵区)

問題14

家康公の駿府での人質時代、母親代わりに養育したと伝えられている家康公の祖母はだれでしょうか？

- | | |
|---------|---------|
| (1) 華陽院 | (2) 高台院 |
| (3) 崇源院 | (4) 伝通院 |

解説

駿府人質時代のうち、多感な8才から結婚する16才までの家康公を、親代わりとなって扶育したのが母・於大の母の華陽院です。家康公の祖母に当たる女性で、刈谷城主・水野忠政の妻となり、その後、その美貌のため、松平清康が水野との講和の条件として後妻にしたといわれます。華陽院は竹千代の駿府での寓居近くにある智源院の庵に住み、細やかな愛情を注ぎましたが、家康公が桶狭間の合戦で出陣中に亡くなりました。後年、家康公は智源院に華陽院を葬り、寺名も華陽院と改め現在に至っています。



華陽院の墓(華陽院/静岡市葵区)

問題15

駿府での人質時代に、家康公が兵法や南宋学などを学んだ寺院はどこでしょうか？

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| (1) 清見寺
<small>せいけんじ</small> | (2) 智源院
<small>ちげんいん</small> |
| (3) 臨濟寺
<small>りんざいじ</small> | (4) 蓮永寺
<small>れんえいじ</small> |

解説

臨濟寺は今川家の菩提寺で、臨濟宗の僧たちの厳しい修行寺でもあります。本山である京都妙心寺の記録(「妙心寺史」)には、家康公は早くから才能を見出され、ここで武将としての経綸(大将としての倫理哲学)の基礎を学んだと記されています。現在も「家康公手習いの間」が残されていますが、普段は非公開であり、駿府城東隅櫓の資料館に復元された「手習いの間」を見ることができます。また、清見寺も、臨濟寺と同じく臨濟宗妙心寺派の寺院で太原雪斎が両寺の住職を兼ねており、ここにも家康公が学んだとされる「家康公手習いの間」が残ります。



竹千代が学んだ臨濟寺(静岡市葵区)
今川家の菩提寺でもある。

問題16

前問の寺院の住職で家康公の教育に当たったと伝えられる人物は、今川義元の先生でもありました。それはだれでしょうか？

- | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|
| (1) 登誉上人
<small>とうよしょうにん</small> | (2) 太原雪斎
<small>たいげんせっさい</small> |
| (3) 快川国師
<small>かいせんこくし</small> | (4) 本光国師
<small>ほんこうこくし</small> |

解説

太原雪斎は今川義元が子どもの頃からの教育係であり、のちに今川家の重臣として義元の執政とも軍師ともいわれました。京都妙心寺35世を務めたほどの高僧で、家康公が雪斎から受けた薫陶は、今で言えば超名門大学の学長による直々の個人指導のようなものでした。雪斎の没年は弘治元年(1555・60歳)でしたから、家康公が14歳の時で、その最晩年まで人質の身の家康公の教育に精魂を傾けたのは、義元の依頼があったからだけではなく、家康公の学問に対する真摯な姿勢があったからでしょう。



太原雪斎像(臨濟寺/静岡市葵区)

問題17

竹千代(家康公)の手習いの時間、前問の先生は、孔子と弟子の子貢の問答を例に、竹千代に問いかけたといいます。「国家には、食と兵と信がなければならん。何かの都合で国家がこの三つを供えられない場合、最後に残すものは何か」と。答えに迷った若き家康公ですが、先生の求めた正解はどれでしょうか？

- (1) 食 (2) 兵
(3) 信 ※この問題は3択です。

解説

この問答は山岡莊八著の「徳川家康」に出てくる有名な問答です。幼い家康公から大将の器を見出した太原雪斎の思いと、その思いに応じて成長していく家康公とのやり取りが描かれています。この話は家康公が自分の教科書とした『貞観政要』の問答に登場する話であり、その内容を小説に著したものでしょう。



竹千代手習いの間
(復元／駿府城東隅櫓資料館／静岡市葵区)

問題18

家康公が元服にあたり、これまでの竹千代に替え、名乗った名前はなんだったのでしょうか？

- (1) 清康 (2) 信元
(3) 信康 (4) 元信

解説

14才となった竹千代(家康公)は今川館(一説には浅間神社)でこの式に臨み、理髪(一説には浅間神社)でこの式に臨み、理髪の儀は今川一門の関口義広が、烏帽子親は今川義元自身が務めました。義元の「元」を賜り、ここに松平九代当主である松平元信が誕生したのです。ちなみに「信」という字は儒教における五常「仁義礼智信」の一徳目でもあり、武士の名前には良く使われました。また、元服を機に岡崎城主としての立場も認められるはずでしたが、義元は駿府を離れることは認めませんでした。家康公は今川一門の侍大将として働くことを求められたのです。



静岡浅間神社大拝殿(国重文／静岡市葵区)
「おせんげんさま」と呼ばれ静岡の人々から広く崇敬を集めている。大拝殿は日本一の高さを誇る社殿。

問題19

元服^{げんぷく}の前年に、今川義元はあるものを竹千代^{たけちよ}に与え松平当主^{とうしゅ}として認めました。現在も静岡浅間神社^{せんげん}に残されている“あるもの”とは何でしょうか？

- (1) 着初^{きぞ}めの腹巻^{はらまき}(鎧^{よろい}) (2) 初陣^{ういじん}用の兜^{かぶと}
 (3) 義元^{よきもと}愛用^{あいよう}の脇差^{わきざし}(刀) (4) 葵^{あおい}の紋入^{もんい}り陣羽織^{じんばおり}

解説

静岡浅間神社は、家康公が元服の前年に「掬甲の礼=初めて甲冑^{かこう}を身につける儀式^{かっこう}」を行った場所とも伝えられ、その際に義元から贈られたものが、この腹巻^{へにいとおどし}「紅糸威腹巻」と伝わっています。この儀式を以て、竹千代が父・広忠の跡を継ぐ松平家九代目の当主であることが正式に認められました。浅間神社は家康公と武田信玄との戦いの際に、家康公が再建するという約束をして社殿^{しゃでん}が焼き払われました。その後、その約束通り、浅間神社の社殿を立派に再建し、大切にすると伝えられています。



義元より拝領の「紅糸威腹巻」
(県重文／静岡浅間神社)

解答… (1)

問題20

家康公は17歳で、崇敬する祖父^{すうけい} 清康から一字を引き継ぎ^つ、元康^{もとやす}と名を改め、初陣^{ういじん}を果たしました。その初陣はどのような内容だったのでしょうか？

- (1) 岡崎衆^{おさきしゆう}を率いて三河国幡豆郡^{はづぐん}の吉良義昭^{きらよしあき}を攻め、勝利した
 (2) 岡崎衆^{おさきしゆう}を率いて三河国加茂郡^{かもぐん}の寺部城^{てらべじやう}を攻め、勝利した
 (3) 今川軍^{いまがわぐん}を率いて尾張国^{おわり}の織田信長^{おだのぶなが}を攻めたが途中で和睦した
 (4) 今川軍^{いまがわぐん}を率いて三河国^{はいつく}の宝飯郡牛久保城^{たからひめぐん}を攻め、勝利した

解説

寺部城は現在の豊田市にあり、鈴木氏の城でした。寺部城主の鈴木重辰が今川氏に背き、織田氏に通じたため、今川義元が家康公に鈴木氏を攻めることを命じました。家康公は故郷の岡崎城に帰り、自ら先頭に立って松平の諸将たちを率いて、激戦の末、寺部城を落とし見事に初陣を飾ります。祖父 清康^{ほうふつ}を彷彿とさせる家康公の勇ましい姿に、岡崎の将士達は皆感動し喜びました。しかしそれでも岡崎城主として戻されることはなく、2年後に桶狭間の合戦を迎えることになりました。



寺部城址(豊田市寺部町)
渡辺半蔵守綱の陣屋として明治まで存続した

解答… (2)

問題21

永禄3年(1560)の桶狭間の合戦で、家康公が果たした役割とはどのような内容だったのでしょうか？

- (1) 今川方の鵜殿長照が守っていた大高城に兵糧を運び入れた
- (2) 今川方の岡部元信が守っていた鳴海城の救援に向かった
- (3) 織田方の善照寺砦を攻略した
- (4) 織田方に属していた刈谷城の水野信元を攻めた

解説

今川義元の西上にもとない、家康公は先陣をつとめました。今川方の最前線に位置する尾張の大高城は、近くの鷺津・丸根砦に入った敵の織田軍と対峙し、城に籠る兵士の兵糧(食糧)が乏しくなっていました。そこで、義元は家康公に大高城に兵糧を入れることを命じました。「三河物語」では、家康公は近くの寺部城下に放火し、砦の織田軍の注意を引いた隙に兵糧を運びこんだと記されていますが、寺部城は30キロ以上も離れており、家康公の初陣の働き(寺部城攻め)が混同されたのかも知れません。いずれにしろ、家康公は非常に困難な務めを果たしたのです。



大高城本丸跡(名古屋市緑区)

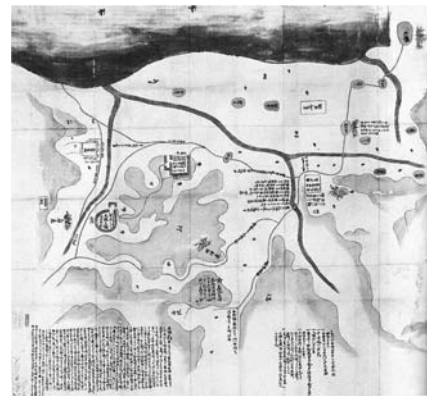
問題22

「信長公記」に記される信長軍の桶狭間での今川軍への攻撃は、どのようなものだったのでしょうか？

- (1) 今川軍が寝静まるのを待って夜襲を掛けた
- (2) 大量の鉄砲で今川の騎馬隊を全滅させた
- (3) 油断して酒を飲んで休んでいるところを急襲した
- (4) 狭い街道で縦に長く伸びた隊列に正面から攻撃をした

解説

私たちがドラマでよく目にする「酒を飲んで油断している今川軍を急襲する」場面は、小瀬甫庵の著した「信長記」の中で表現されたもので、脚色されて物語性が強くなっています。比較的信ぴょう性が高いと言われる「信長公記」によれば「オケハザマヤマ」に陣取った義元本隊を正面から急襲したとあり、現在もその様子について研究が進められています。信長が情報を正確に把握し、有利な条件を選んで攻撃した様子が伺えます。

桶狭間合戦図(名古屋市蓬左文庫蔵)
中央に義元本陣と「桶狭間山」という表記がある

問題23

桶狭間の敗戦後、家康公は岡崎城には入らず、まず松平家の菩提寺に入りました。何という寺でしょうか？

- (1) 真福寺 (2) 大樹寺
(3) 大林寺 (4) 法蔵寺

解説

桶狭間の合戦当時、岡崎城には今川方の兵が駐屯していたため、無用のトラブルを避けるために、いったん岡崎の大樹寺に入ったと伝わります。その際引き連れていたのは近臣18名だったといいます。大樹寺は文明7年(1475)、松平四代親忠が創建した浄土宗の寺です。松平家歴代の菩提所および祈願所であり、多くの塔頭(修行僧の居住寺)を擁し、修行僧も多かった大樹寺は、家康公にとって大きな心の拠りどころだったのでしょうか。しかしここで安心することはできませんでした。大樹寺の外には織田方の兵が押し寄せ、家康公は窮地に追い込まれていったのです。



大樹寺三門と楼上から見た総門(県重文/岡崎市鴨田町)



問題24

この寺で自害をしようとした家康公に、住職の登誉上人が諭した言葉で、平和思想の原点ともなった言葉は次のどれでしょうか？

- (1) 厭離穢土 欣求浄土 (2) 元和偃武
(3) 天下布武 (4) 風林火山

解説

大樹寺に入った家康公ですが、織田勢に寺を囲まれて前途に失望し、先祖の墓前で自害を決意しました。しかし、住職の登誉上人が「厭離穢土 欣求浄土」の言葉を聞かせて、家康公に生きる意味を諭しました。これは、穢れた乱世(穢土)を厭い離れ、平和な世(浄土)を願い求めるという仏の教えです。家康公は上人のこの言葉に感動し、自らの使命の自覚と生きる希望を見出しました。以後、戦場には常にこの言葉を旗印として掲げ平和な社会を求めて戦い続けたのです。



登誉上人像(大樹寺蔵/岡崎市鴨田町)

問題25

13年ぶりに岡崎城に帰還した家康公は、まず、どのような軍事行動をとったのでしょうか？

- (1) 織田信長との和睦交渉に入った
- (2) 今川義元の甲い合戦で、尾張の清洲城を攻めた
- (3) 自立を目指し、西三河の諸城を攻めた
- (4) 今川方に属す東三河の諸城を攻めた

解説

今川義元亡き後、今川家は混乱の最中にありました。家康公は今こそ松平家が自立を果たす機をとらえ、息を継ぐ間もなく岡崎城を起点に動き出します。西三河にある水野氏を始め、織田方の城や親今川方の吉良氏を攻め、岡崎に迫る脅威を退け失地回復を進めました。これは織田や今川方に自らの実力を示し、自立(独立)への道を拓き契機となりました。一方、美濃の斎藤氏との戦いを控えた信長は、家康公の脅威を取り除くことが必要と考え、水野信元を仲介に、和睦交渉に入りました。



吉良東条城址(西尾市吉良町)
家康公に立ちはだかった吉良義昭の居城。

解答… (1) (3)

問題26

桶狭間の合戦の2年後の永禄5年(1562)、織田信長と家康公が交わした軍事同盟を何と呼んでいるのでしょうか？

- | | |
|----------|----------|
| (1) 尾張同盟 | (2) 清洲同盟 |
| (3) 三遠同盟 | (4) 駿府同盟 |

解説

家康公は今川家と対決する様相が深まるにつれ、西の信長との同盟を模索します。すさまじい勢いで勢力を伸ばす信長と手を結ぶことが、松平家が生き残る道との考えもあったようです。しかし両家は長年宿敵として戦ってきた経緯から家臣団に遺恨も強く、同盟はなかなかまとまりませんでした。桶狭間の戦いから2年、家康公の叔父にあたる刈谷城主・水野信元の仲介により、信長の居城である清州城でようやく軍事同盟が結ばれました。



清洲城石垣(清須市一場)発掘された清洲城石垣。

解答… (2)

問題27

この同盟は主にどのような内容だったのでしょうか？

- (1) 織田と松平が協力して足利幕府を倒すという内容
- (2) 織田と松平が対等な立場で軍事的に協力し合うという内容
- (3) 織田は松平の臣下になり、今川を攻めるという内容
- (4) 松平は織田の臣下になり、織田に守ってもらうという内容

解説

「改正三河後風土記」には、信長が「互いに天下を目指し、どちらかが天下に号令をかけるときには、互いが家臣になろう」と話したと記されています。清州同盟はこれ以後、信長が本能寺で死去するまで、戦国時代としては異例となる21年もの間維持され続けました。家康公は「三方ヶ原の合戦」など、苦境においても愚直に信長との同盟を貫き、その姿勢が内外における名声を高めて後年の天下取りに役立ったとも言われます。日本の歴史を大きく左右することになった同盟といえるでしょう。



名古屋城清洲櫓(国重文/名古屋城跡)
清洲城本丸天守の部材を使って復元されたものと伝わる。御深井丸に建っている。

問題28

前問の同盟を結ぶと、駿府に残った妻子を取り戻すため、上ノ郷城を攻め、捕らえた城主の2人の子との人質交換を行いました。現在の蒲郡市にあったこの上ノ郷城の城主はだれだったのでしょうか？

- | | |
|----------|----------|
| (1) 一色義道 | (2) 鵜殿長照 |
| (3) 吉良義安 | (4) 新田義高 |

解説

家康公の勢力が拡大し、多くの領主たちが今川方から松平方に味方するようになる中、鵜殿氏は今川家の縁戚でもあったことから今川方に留まっていた。城主の鵜殿長照はこの戦いで戦死。子の氏長と氏次は捕らえられ、駿府に留められていた家康公の妻 関口氏(築山殿)と長男 竹千代(後の松平信康)、長女 亀姫を人質交換で取り戻しました。清州同盟を結ぶ中で最大の懸案であった家族のことが、早期に解決された瞬間です。人質交換の立役者である石川数正が、得意気に凱旋する様子が「三河物語」に記されています。



上ノ郷城址(蒲郡市神ノ郷町)
鵜殿氏の居城だったが、家康公によって陥落、以後は久松俊勝の居城となった。

問題29

元康(家康公)は永禄6年(1563)二度目の改名をします。「元」の字を「家」に変え「家康」と名乗りました。この改名には次のような意味がありますが、間違っているのはどれでしょうか？

- (1) 今川義元の「元」を捨てたことで、今川氏と決別し、戦国大名としての自立の決意を示した
- (2) 武家の神様とも崇敬される源八幡太郎義家の「家」を名乗ったことで武将としての飛躍を志した
- (3) 織田信長の近習の前田利家の「家」の字をもらったことで、信長への忠誠を表した
- (4) 三河を統一した祖父 清康の「康」を残したことで、祖父の志を継ぐことを示した

解説

家康公は祖父 清康を大変尊敬しており、元康と名乗っていた当時から「康」の字は残

そうと決めていたのでしょう。源八幡太郎義家は、鎌倉幕府を開いた源頼朝や室町幕府を開いた足利尊氏の祖先にあたる源氏の頭領であり、武家の神様として多くの武士の崇敬を集めていました。元康から家康への改名は、3年後の徳川復姓へとつながっていきます。



八幡太郎源義家像(府中市) 京都の石清水八幡宮で元服したことから「八幡太郎」と称すようになった。

問題30

改名直後に、家臣団が二分して戦うことになった家康公の大きな危機とは何だったのでしょうか？

- (1) 武田軍の岡崎侵入
- (2) 小豆坂の合戦
- (3) 松平信定の反乱
- (4) 三河一向一揆

解説

各地で政治的・経済的な力をもち、一大勢力となっていた本願寺は、三河地方でも佐々木上宮寺、野寺本證寺、針崎勝蔓寺の三ヶ寺を中心に強大な勢力を誇っていました。一向衆の「一向」というのは「一向に(ひたむきに)阿弥陀仏を信ずる」という意味です。本願寺第8世の蓮如によって一向専修念仏が提唱され、武士や民衆に幅広く支持されました。これらの寺院は諸役免除・不入権をもち、西三河への勢力拡大を推し進めようとする家康公と対立する立場をとったのです。一説には、家康公の家臣が上宮寺に置かれていた百姓たちの初米を強制的に徴収したことが発端となって、三河一向一揆が勃発したと伝えられています。



本證寺(安城市野寺町) 一向宗寺院「三河三ヶ寺」の一つ。一向一揆の拠点となった。堀や櫓を備えた砦そのものである。

問題31

前問の危機のさなか、敵に追われた家康公は山中八幡宮にある洞窟に隠れましたが、敵が洞窟を見つけ、近づいてきます。そのとき洞窟の中からある生き物が飛び出したのを見た敵は、ここには人はいないだろうとその場を立ち去りました。家康公を救ったと伝わるある生き物とはなんですか？

- | | |
|-------|-------|
| (1) 鹿 | (2) 鷹 |
| (3) 狸 | (4) 鳩 |

解説

三河一向一揆の敵に追われた家康公は、山中八幡宮の洞窟に入って隠れたと伝えられています。追手の兵がこの中を探そうとすると、洞窟から二羽の白い鳩が飛び立ちました。追手は、鳩がいる所に人はいないと思い、探すことを諦めました。家康公の窮地を救ったこの洞窟は、「鳩ヶ窟」と名付けられ、山中八幡宮に現在も祀られています。また、このことで山中八幡宮がある山は、御身隠山と呼ばれるようになりました。



鳩ヶ窟(山中八幡宮/岡崎市山中町)

問題32

前問の危機を乗り越えた家康公は、永禄9年(1566)、朝廷より官位を与えられ三河守に任じられます。この時に松平姓から先祖の徳川姓に復姓しますが、徳川氏の先祖は何氏と伝えられているのでしょうか？

- | | |
|---------|---------|
| (1) 足利氏 | (2) 今川氏 |
| (3) 楠木氏 | (4) 新田氏 |

解説

三河一国を統一した家康公は、今までの松平姓を変えて徳川に復姓します。これは、源氏を先祖とすることを公にするもので、将来的に武士の棟梁として国を統治する可能性を示したのです。家康公の先祖であるとする世良田徳川氏は新田源氏の血流で、上野国新田郡世良田郷(群馬県)を拠点としていました。経緯の詳細には諸説ありますが、その子孫が三河国松平郷で松平太郎左衛門の婿養子に入り名跡を継ぎます。この人物が松平初代親氏であり、家康公は親氏の子孫で松平宗家9代目、徳川初代当主となりました。

世良田東照宮(太田市世良田町)
「徳川氏発祥の地」の幟がある

問題33

永禄10年(1567)、家康公の長男^{のぶやす} 信康は、ある武将の娘^{よめ}を嫁に迎えることとなりました。この武将はだれでしょうか？

- (1) 上杉謙信^{うえすぎけんしん} (2) 織田信長^{おだのぶなが}
 (3) 武田信玄^{たけだのぶのぶ} (4) 北条氏政^{きたじょううじまさ}

解説

家康公と織田信長は「清州同盟」を結んでおり、永禄10年(1567)には家康の長男信康と、織田信長の娘 徳姫が結婚して互いの結びつきを強めました。信康は武芸に優れ、立派な後継者として成長し、家康公は浜松城に移ると信康に岡崎城主を任せました。しかし、信康と不仲であったとされる徳姫^{つぎやまどの}が、父の信長に今川の血をひく信康と母である築山殿が武田と内通していると訴えたのが原因で、信長は信康の死^{うなが}を促します。家康公は二人を助けようと尽力しましたが、妻の築山殿は自害、信康は二俣城で自らの腹を切る悲劇となりました。



岡崎三郎信康肖像(勝蓮寺／岡崎市矢作町)

問題34

永禄11年(1568)、「天下布武」を掲げた織田信長が武田氏と同盟を結び、室町幕府第15代の将軍^{しょうりつ}に擁立した人物はだれでしょうか？

- (1) 足利義満^{あしかがよしみつ} (2) 足利義昭^{あしかがよしあき}
 (3) 北条高時^{きたじょうたかとき} (4) 徳川慶喜^{とくがわよしのぶ}

解説

足利義昭は、もともと家督を継げない立場にいて仏門に入っていました。しかし、兄である室町幕府第13代将軍の義輝が松永久秀らによって暗殺されると還俗し、織田信長の手助けにより上洛して15代将軍になります。しかし、政治の実権は信長が掌握していたので、やがて義昭は信長と対立し、周辺の大名に呼び掛けて信長包囲網を形成するようになりました。しかし頼みの武田信玄が死去すると、翌年の天正元年(1573)、義昭は信長によって京都を追放されてしまいます。ここに室町(足利)幕府は滅亡し、義昭はその最後の将軍となったのです。



足利義昭木像(等持院／京都市中京区)

問題35

三河一国を平定した家康公は、永禄11年(1568)の暮れに遠江に進出します。このとき、盟約を結んで同時に駿河に攻め込んだ武将は誰でしょうか？

- (1) 上杉謙信 (2) 織田信長
(3) 武田信玄 (4) 北条氏康

解説

遠江進出をねらう家康公でしたが、武田・北条・今川が結んでいた「甲相駿三国同盟」が大きな壁となって、なかなか兵を進める事が出来ませんでした。しかし信玄が信長との関係を強め三国同盟を一方的に破棄すると、家康公と信玄は手を結び、永禄11年(1568)12月に同時に遠江と駿河に攻め込みました。信玄に「塩留」するなどの抵抗をしていた今川氏真は駿府今川館を追われ、掛川城に逃げ込みます。翌年、その掛川城を攻略し氏真を退去させた家康公は、遠江の平定をほぼ成し遂げました。



掛川城(掛川市掛川)

今川氏真が最後まで抵抗した城。江戸時代末期には太田道灌の子孫が城主を務めた。二の丸御殿は国の重要文化財。

解答… (3)

問題36

家康公が遠江に進出した際、浜名湖周辺の今川方の部将たちは頑強に抵抗しました。特に最後まで抵抗したことで知られる大沢氏の居城は、家康公の長男、信康が一時幽閉されていたことでも有名です。現在の館山寺温泉や浜名湖遊園地の場所にあったこの城はなんというのでしょうか？

- (1) 浜松城 (2) 曳馬城
(3) 二俣城 (4) 堀江城

解説

遠江進出の際、家康公は井伊谷三人衆(菅沼・近藤・鈴木)を味方につけ、彼らを道案内としてまず井伊谷に討ち入りました。遠江の諸将が次々と徳川に屈伏する中で、浜名湖沿岸の大沢基胤は、堀江城に籠って抵抗を続けました。家康公自身は既に曳馬城(現在の浜松)に入っていました。その後堀江城は開城され大沢氏は降伏にいたしました。現在その遺構を見ることはできませんが、遊園地の中に堀跡などを窺うことができるようです。



堀江城跡から見た館山寺と浜名湖

解答… (4)

問題37

岡崎城を長男 信康に譲り、浜松城に入った家康公ですが、浜松城のもとの名前は何かだったでしょうか？

- (1) 頭陀寺城 (2) 曳馬城
(3) 堀川城 (4) 見付城

解説

浜松城は、もとの名を曳馬城ひくまといいました。元亀元年(1570)、家康公は岡崎城から拠点を移して居城としましたが、その際に、曳馬という城名が「馬を引く」につながり、「引く」には「退却する」「逃げる」という意味もあって敗北をイメージさせることから、縁起を担いで新たに「浜松城」と名付けたと伝えられます。浜松という城名は、かつてこの地にあった荘園「浜松荘」から採られました。それから家康公は16年ほどをこの浜松城を中心として過ごすこととなります。浜松城は家康公が天下統一に向けて飛躍した時期に在城した城であり、江戸時代も浜松城主になると幕府の要職に登用される者が多かったことから「出世城」とも呼ばれるようになりました。



曳馬城本丸跡(浜松市松城町)
浜松東照宮の位置に本丸があった。

問題38

永禄11年(1568)、駿府を武田信玄に追われた今川氏真が入城し家康公に抵抗した城で、家康公の遠江平定の最後の戦場となったのはどこでしょうか？

- (1) 掛川城 (2) 高天神城
(3) 堀川城 (4) 堀江城

解説

徳川・武田の遠江侵攻の際、今川氏真は駿府の今川館を追われて家臣の朝比奈泰朝が守っている掛川城に逃げ込みました。しかし、家康公の軍に包囲されて約半年に渡る籠城戦となり、ついに開城、氏真は退去させられました。これによって戦国大名としての今川家は滅亡しましたが、氏真の息子が二代目将軍徳川秀忠に出仕して、子孫は旗本として幕府に仕えることとなります。氏真自身は、江戸の屋敷で余生を過ごしました。



観泉寺(杉並区今川)
今川氏真開基による今川一族の菩提寺。氏真は家康公との関係を保ち続け、最後は江戸に居住した。

問題39

元亀元年(1570)、織田・徳川連合軍は近江国の浅井長政を攻め、姉川で合戦になりますが、この戦で浅井を助けて連合軍を形成した武将はだれでしょうか？

- (1) 朝倉義景 (2) 一色義定
(3) 上杉謙信 (4) 細川藤孝

解説

織田・徳川連合軍と争う浅井長政を助けて連合軍を組んだのが越前の戦国大名朝倉義景で、家康公率いる徳川軍は、姉川の戦いでこの朝倉軍と戦う事になります。合戦は徳川軍と朝倉軍、織田軍と浅井軍がそれぞれ川を挟んで対陣し火蓋が切られました。家康公は徳川軍の倍ほどの兵を持つ朝倉軍に対し、家臣の榊原康政の部隊に川を迂回して敵の側面を攻撃させ、これによって朝倉軍は崩れました。これが、姉川の合戦での徳川・織田連合軍の勝利への突破口となりました。



朝倉義景肖像(福井市心月寺蔵)

解答… (1)

問題40

姉川の合戦は、天下を目指す織田信長の侵攻を阻止しようと、足利将軍と石山本願寺が呼びかけた信長包囲網の一端でした。この呼びかけに応じ、信長の同盟者である家康公の領国の遠江に侵攻したのが武田信玄です。当時、武田軍は戦国最強を謳われましたが、この武田の軍法を記した書をなんといいましょうか？

- (1) 甲陽軍鑑 (2) 信玄公記
(3) 徳川実紀 (4) 三河物語

解説

甲陽軍鑑は武田家の家臣によって書かれたもので、武田信玄の時代を中心に、武田家の戦術や逸話などが記されている軍学書です。成立したのは長篠の合戦の前の時期で、武田家が衰退するに至って武田の武士道を後世に伝えるものとなりました。

家康公は後に武田家が滅亡する際に、武田の遺臣達を多く取り込みました。その際、武田の軍法や戦術を学んで活用したとされています。



甲陽軍鑑(江戸時代/個人蔵)長篠の合戦の陣場が描かれている。

解答… (1)

問題41

家康公は、遠江^{とおとうみ}に侵攻した武田信玄^{みかたがほら}と三方ヶ原で戦いますが、信玄のとした作戦とはどれでしょうか？

- (1) 家康公を浜松城からおびき出し、野戦^{やせん}で一気に倒そうとした
- (2) 周囲の城を落としてから、徐々に浜松城を攻めようとした
- (3) 浜松城の家康公を相手にせず、直接、信長の岐阜城^{きふじ}を攻めようとした
- (4) 岡崎城を先に攻め、家康公と信長^{ふんだん}を分断しようとした

解説

若き家康公と西上を目指す武田信玄が対立した三方ヶ原の戦いで、信玄は浜松城に籠る家康公を攻めず、あえて城を素通りして野戦^{やせん}に持ち込み一気に決着をつけました。籠城戦^{ろうじょうせん}では兵の損失と時間がかかるので、当時病を患っていた信玄は早く勝利を手にする必要があったとも言われています。これに学んだ家康公は、後の関ヶ原の合戦で、敵の石田三成の籠る大垣城をあえて素通りし、関ヶ原で野戦に持ち込み、天下分け目の大戦をわずか一日で勝利しました。



祝田坂旧道(浜松市)家康公が武田軍を追った坂。

解答… (1)

問題42

三方ヶ原で大敗した家康公が、浜松城に逃げ戻る途中の茶店で食べたと伝えられる餅^{もち}はどんな餅だったのでしょうか？ その餅の名前は、茶店があったとされる地域の「町名」として今に残り、茶店の老婆^{らうば}が家康公から代金^{ちやうしゅう}を徴収したと伝わる場所には「銭取^{ぜにとり}」という地名が残っています。

- (1) 小豆餅^{あずきもち}
- (2) 安倍川餅^{あべがわもち}
- (3) きなこ餅
- (4) 五平餅

解説

浜松市に小豆餅と銭取という地名があります。名前の由来は、家康公が武田信玄に大敗した三方ヶ原の戦いでの、次のエピソードからきています。家康公が浜松城を目指して逃げている途中の出来事です。空腹で茶店で小豆餅を食べていると、敵の追手が迫って来ました。あわてた家康公はお金も払わずにその場から逃げだしたので、茶店の老婆は家康公を追いかけて、ついに餅代を徴収しました。小豆餅を食べた場所が「小豆餅」、代金を受け取った場所が「銭取」という地名になったということです。



小豆餅と銭取の地名表示(浜松市)

解答… (1)

問題43

浜松城に帰還した家康公は、城門を開けさせ、かがり火を炊いて味方の兵が入り易くしましたが、このとき重臣の酒井忠次はどのようなことをしたと伝えられているでしょうか？

- (1) 数珠を掲げながら念仏踊りを始めた
- (2) ざるを持ちだしてエビすくい踊りを始めた
- (3) 櫓にのぼり太鼓をたたいた
- (4) 鉄砲を構えて城に迫る敵兵を脅した

解説

三方ヶ原で大敗して浜松城に帰った徳川軍は、城を背にして戦う決死の覚悟でした。武田軍の追手が迫ると、あえて城門を開け放して篝火を大きく焚き、敵を誘い込むような形をとりました。家康公の重臣である酒井忠次は、味方の士気を高めるために自らバチを取って太鼓を豪快に打ち鳴らします。武田軍はそんな城の状況を見て奇妙に感じ、城を攻めることを諦めてしまいました。江戸時代に創作された戯曲「酒井の太鼓」の一節ですが、その時の太鼓が磐田市の旧見付小学校に市の文化財として残されています。



伝酒井の太鼓
(市文化財／旧見付小学校所蔵／磐田市見付)

問題44

三方ヶ原で大敗した家康公でしたが、家臣の大久保忠世らが夜襲をかけ一矢を報いたとされる場所があります。それはどこでしょうか？

- (1) 犀ヶ崖
- (2) 一言坂
- (3) 祝田坂
- (4) 龍ヶ岩洞

解説

家康公の家臣大久保忠世は、敗戦後にまだ力の残っている兵を集めると、戦いに勝利し、なお浜松城に迫る武田軍に夜襲を仕掛けました。忠世は、犀ヶ崖と呼ばれる崖に布の橋を仕掛けると、背後から鉄砲を撃ちかけて敵を大混乱させ、布の橋に殺到した武田の兵たちを深い崖下に追い落したのです。その結果、武田兵に多くの犠牲者が出ました。三方ヶ原では大敗しましたが、一矢報いて徳川軍の骨の強さを知らしめることになりました。



犀ヶ崖古戦場(浜松市中区鹿谷町)

問題45

前問の夜襲で命を落とした武田兵の“たたり”と思われる出来事が続いたため、家康公は岡崎の大樹寺よりある人物を呼び寄せ、怨霊を鎮め、災いを取り除きました。その法力に感嘆した家康公は、その人物のために駿府に西福寺(現在は松平西福寺：東京)を建立し、開山上人として迎えています。この人物とは誰でしょうか？

- (1) 勢誉愚底 (2) 太源雪斎
(3) 貞誉了傳 (4) 登誉天室

解説

三方ヶ原の合戦の2年後、犀ヶ崖では戦死した武田軍のたたりと思われる出来事が続いたため、家康公は岡崎の大樹寺から貞誉了傳を呼んで、七日七晩念仏を唱えさせ供養しました。貞誉了傳は通称を素道和尚と言ひ、家康公が桶狭間の合戦後、岡崎の大樹寺に入った際、追ってくる敵軍を門でなぎ倒して家康公を守った祖洞和尚だと伝わっています。後に、貞誉了傳は徳川幕府の庇護のもとに西福寺(静岡市)の開山上人となり、二代将軍秀忠の時に、江戸の蔵前に松平西福寺を建立、その開山となりました。



貞誉了傳(祖洞和尚)肖像画
(大樹寺蔵／岡崎市鴨田町)

解答… (3)

問題46

前問の夜襲で命を落とした多くの武田兵を供養するために、家康公の命で始められたとされる浜松の伝統行事は何でしょうか？

- (1) 遠州悪霊払い (2) 遠州大念仏
(3) 遠州風揚げ大会 (4) 遠州花火大会

解説

大久保忠世率いる部隊が武田軍に一矢報いた犀ヶ崖の夜襲によって、戦死した武田兵を鎮魂するため、家康公の命で念仏が唱えられました。これに始まった遠州大念仏の行事は現在も続けられて浜松市の無形民俗文化財に指定されています。初盆の家を訪れて、庭で笛、太鼓、鐘の音に合わせて念仏踊りが行われ、その家の先祖供養が行われています。また、三方ヶ原の犠牲者の供養としての大念仏も毎年行われています。



遠州大念仏(浜松市犀ヶ崖資料館)

解答… (2)

問題47

三方ヶ原の敗戦の戒めとして、家康公は絵師に自分の姿を描かせました。この「しかみ像」と呼ばれる絵の家康公の顔はどのような表情をしているでしょうか？

- (1) 憔悴しきった表情 (2) 怒りの表情
(3) にこやかな表情 (4) 泣きじゃくっている表情

解説

家康公は武田信玄に三方ヶ原の戦いで敗れた直後、負けて多くの家臣を失い憔悴しきった苦渋の表情の姿を絵師に描かせました。家康公は自らを戒めるため、この絵を生涯座右から離さなかったといいます。戦いの当時、家康公は31歳と若かったこともあり、家臣の諫言にも耳を貸さず強引に兵を進めたことや、多くの家臣が家康公を守るために犠牲になったことを、家康公は一生忘れる事がありませんでした。この戒めこそが、後に天下人となるための重要な糧だったとも言えるでしょう。



しかみ像石像(岡崎城二の丸/岡崎市)
徳川美術館に残されている絵画をモチーフに彫刻されたものである。

解答… (1)

問題48

天正3年(1575)、武田氏との雌雄を決すべく織田・徳川連合軍は武田勝頼と対戦します。その戦いは次のうちどれでしょうか？

- (1) 井田野の合戦 (2) 川中島の合戦
(3) 小牧・長久手の合戦 (4) 長篠の合戦

解説

天正3年(1575)、武田信玄亡き後、当主を継いだ武田勝頼が、徳川側の武将奥平昌昌の守る長篠城(2年前までは武田側であった)を包囲した事が長篠の合戦の引き金となりました。奥平家の家臣鳥居強右衛門が包囲網を潜り抜けて、苦しい状況を岡崎城の家康公に伝えた有名な話が残されています。織田・徳川連合軍は長篠城からほど近い設楽ヶ原でついに武田軍と雌雄を決する事となりました。この時、家康公の重臣酒井忠次率いる別働隊が、城の背後にある鷲ノ巣山の砦を急襲して武田軍の退路を断ち、決戦を有利に進めることができたのです。



武田勝頼肖像(高野山持明院蔵)

解答… (4)

問題49

前問の合戦では、これまでの常識をくつがえす新たな戦法が使われたとされています。どのような戦法だったのでしょうか？

- (1) 長槍隊を中心とする集団戦法
- (2) 大砲を使用した重火戦法
- (3) 忍者による奇襲戦法
- (4) 大量の鉄砲を使用した集団戦法

解説

武田軍は騎馬隊を主力とする軍団であったため、織田・徳川軍は戦場に馬防柵を築き、武田の馬の進軍を妨げて、そこを鉄砲隊が集中攻撃しました。これまでも鉄砲は使われていましたが、最初の射かけに使う程度で大量殺戮の武器にはなっていませんでした。長篠の合戦では鉄砲が初めて大量に、集団戦法として使われたために、武田軍の死者が続出する結果となったのです。勝頼は、信玄以来の重臣の多くをこの戦で失ってしまうことになりました。



長篠合戦屏風(部分／犬山白帝文庫蔵)

問題50

武田の戦死者の霊を慰めるため、設楽ヶ原の戦場跡で松明を灯して供養したことに始まるお盆の伝統行事を何というのでしょうか？

- (1) 大海 放下おどり
- (2) 奥三河 花まつり
- (3) 信玄原 火おんどり
- (4) 長篠 幟まつり

解説

長篠の合戦の後、戦死者を埋葬した信玄塚から蜂が大量発生して人々を苦しめました。これは武田軍の犠牲者のたたりと考えられ、武田軍の戦死者を鎮魂するために長さ2、3m直径80cmほどの大きな松明を燃やして供養しました。この行事は400年以上たった今もなお続けられ、毎年お盆の8月15日の夜に信玄原で行われています。これを火おんどりといい、愛知県の無形文化財にも指定されています。



信玄原火おんどり(新城市)

問題51

天正7年(1579)、武田氏への内通の疑いをかけられた家康公の妻 築山殿と長男 信康を処断するよう信長から難題が突きつけられる中、家康公に三男 秀忠が誕生します。後の2代将軍 徳川秀忠の生まれた城はどこでしょうか？

- (1) 江戸城 (2) 岡崎城
(3) 駿府城 (4) 浜松城

解説

二代目将軍となった徳川秀忠は、天正7年(1579)、浜松城内で家康公の三男として誕生しました。母は西郷局です。秀吉の人質として過ごした時期があり、秀忠の名は、秀吉から自らの名「秀」の字と、家康公の忠臣である鳥居元忠の「忠」(四天王筆頭の酒井忠次や祖父 広忠との説もあります)を取って名付けられたと伝わります。秀忠は関ヶ原の合戦時に、信州 上田城の攻略に手間取り、本戦に遅参したことで有名になってしまいましたが、2代将軍となってからは家康公の意志を受け継ぎ、幕府の屋台骨をゆるぎないものにしました。



秀忠公誕生の井戸(浜松市中区常磐町)

問題52

秀忠誕生の5ヶ月後、家康公の長男 信康が自刃させられます。その場所はどこでしょうか？

- (1) 大浜城 (2) 浜松城
(3) 二俣城 (4) 堀江城

解説

家康公の長男で、家康公浜松進出後の岡崎城主でもあり、将来を最も期待されていた松平信康でしたが、義父の織田信長に武田氏内通の疑いをかけられ、死を命じられてしまいました。家康公は信康を何とか助けようと苦心し、最後は重臣の大久保忠世の守る二俣城に預けましたが、信康は腹を切って21歳の若さで自害しました。徳川家を守るために犠牲になった信康の墓は二俣城に程近い清瀧寺にあります。城主の大久保忠世の墓と信康とともに殉死した吉良於初の墓も隣在しています。



松平信康の墓(清瀧寺/浜松市天竜区二俣町)
立派な「信康廟」の中に墓がある。

問題53

天正10年(1582)、天下をほぼ手中しゅちゆうにしていた織田信長が京都 本能寺ほんのうじにて明智光秀あけちみつひでに討たれます。明智光秀について正しい記述はどれでしょうか？

- (1) 織田信長に仕えながら、足利将軍家の幕臣ぼくしんでもあった。
- (2) 比叡山の焼き討ちには参加せず、その頃は九州を攻略していた。
- (3) 岐阜城で羽柴秀吉の命令により家康公の接待役を務めた。
- (4) 織田信長を討ったのち、天王山の戦いで柴田勝家も倒した。

解説

明智光秀の若年期は不明な点が多いですが、足利義昭、織田信長の連絡役になっていて、しだいに織田信長に仕える様になったとされています。比叡山焼き討ちでは主力として参戦しています。信長の信任は厚く、安土城で家康公の接待役をさせられました。しかし羽柴秀吉の高松城攻めの援軍を命じられると、兵の進行方向を織田信長の滞在する京都本能寺に変え、謀反を起こして信長を自害させました。この本能寺の変については近年研究が進み、謀反の理由や経緯について様々な説が取り沙汰されています。



明智光秀像(坂本城跡／天津市下坂本)
光秀の居城、坂本城は比叡山の東にその城跡が残る。

問題54

備中 高松城を攻めていた羽柴秀吉は、本能寺の変を聞き、急遽、講和を結んで京へ引き返し明智光秀を破りました。秀吉が講和を結んだ相手はどれだったでしょうか？

- (1) 小早川隆景
- (2) 島津義弘
- (3) 長宗我部元親
- (4) 毛利輝元

解説

羽柴秀吉は本能寺の変が勃発した時、毛利氏の配下である清水宗治が城主の高松城(岡山県)を水攻めにしていました。信長に援軍を依頼していた秀吉は本能寺の変の一報を受け取ると、時を置くことなく毛利輝元に講和を働きかけ、いち早く軍を撤収して京に戻ることを考えました。秀吉は水攻めでできた池に浮かぶ小舟の上で、清水宗治が自害したのを見届けると、速やかに撤兵して「中国大返し」をやったのけ、山崎の合戦で明智光秀を破ったのです。



高松城水攻めの堰跡
(備中高松城跡／岡山市北区高松)
秀吉による備中高松城水攻めは、周辺の地形を変えてしまう程のものだったと伝わる。

問題55

摂津国堺^{せつつのくにさかい}にいた家康公^{いっこう}一行は、本能寺の変^{いっこう}を聞き、急ぎ“伊賀越え”^{いがかど}のルートで無事、岡崎^{たか}に辿り着きましたが、家康公と別行動^{いっしん}をとり、殺害^{ころ}されてしまった武田の遺臣^{いしん}はだれだったのでしょうか？

- (1) 秋山信友^{あきやまのぶとも} (2) 穴山信君(梅雪)^{あなやまのぶきみ ばいせつ}
 (3) 武田信廉^{たけだのぶかど} (4) 馬場信春^{ばのぶはる}

解説

本能寺の変の際、家康公は少人数の家臣とともに、武田の遺臣である穴山梅雪を伴って堺を見物していました。信長と同盟関係にある家康公は真っ先に明智の軍勢に命を狙われてもおかしくありませんでした。家康公一行は軽装でとても危険でしたが、伊賀越えをして岡崎城に戻り挙兵して光秀を討つことを決意しました。その伊賀越えの際、穴山梅雪は家康公を信頼せずに途中で別行動を取ったために、土民に襲われ殺害されてしまいます。家康公は伊賀者の助けもあり、無事に岡崎城にたどり着く事ができました。



穴山梅雪の墓
 (飯岡共同墓地／京田辺市飯岡南原)

梅雪はこの墓地付近で殺害され、村人がこの地に葬ったと伝えられる。

解答… (2)

問題56

天正12年(1584)、羽柴秀吉^{かか}に不満を抱える信長の次男^{のぶかつ} 信雄が家康公^{たの}を頼んで秀吉と合戦^{あつせん}におよびます。この戦いをなんといいのでしょうか？

- (1) 小牧・長久手の合戦^{こまき ながくて} (2) 四条畷の合戦^{しじょうなわて}
 (3) 矢作川の合戦^{やはぎがわ} (4) 山崎の合戦^{やまさき}

解説

光秀を倒して織田家での発言権を強めた秀吉は、織田家の当主を信長の孫である幼い三法師に決めました。また、それに反対する老臣柴田勝家を、賤ヶ岳の戦いで破りました。そんな秀吉の行動に、信長の二男である織田信雄は悔しい思いをし、家康公に助けを求めます。もともと秀吉の台頭に対抗しようと考え、北条氏と縁戚関係を結んでいた家康公はこれを引き受けて、信雄に力を貸すことにしました。ここに織田・徳川連合軍と秀吉の直接対決となる小牧・長久手の戦いが始まるのです。



小牧・長久手合戦屏風(小牧市歴史資料館)
 右手の山上に家康公本陣旗印の金扇が描かれている

解答… (1)

問題57

前問の戦いに関する記述で正しいのはどれでしょうか？

- (1) 織田・徳川連合軍が本多忠勝・榊原康政等の活躍により圧倒的に勝利した
- (2) 秀吉軍が留守になった岡崎城を攻撃し占領した
- (3) 秀吉が織田信雄と単独で和睦し、家康公は戦の大義を失い停戦した
- (4) 皇室の仲裁により和睦した

解説

小牧陣で秀吉軍と徳川軍はにらみ合いのこう着状態が続きました。事態を動かした秀吉は、甥の三好秀次を大将として、池田恒興、堀秀政、森長可らで組織した別働隊を密かに動かして岡崎城を攻撃しようとしています。この動きを察知した徳川軍は、まずは最後方の三好隊をせん滅し、驚いて引き返した池田、森隊を長久手で攻撃して大勝します。戦で不利な状況になった秀吉は織田信雄に近づき単独で和議を結んでしまいます。戦の大義を失った家康公は兵を引きましたが、秀吉が天下を目指す中、世に大きく徳川の見せつけることとなりました。



色金山家康本陣跡
(色金山歴史公園／長久手市岩作色金)
山上には家康公が座って指揮を執ったと伝えられる「床几石」が残されている。

解答… (3)

問題58

この戦いの後、家康公は和睦の証に二男を秀吉の養子として大坂に遣わしました。後に何と言う武将になるのでしょうか？

- (1) 豊臣秀次
- (2) 徳川秀忠
- (3) 松平忠吉
- (4) 結城秀康

解説

結城秀康は家康公の二男として、浜松城下の宇布見村(現浜松市西区)の小領主 中村正吉宅に生まれましたが、母が正室 築山殿の侍女であったことから家康公が実子として認めなかったため、家臣の本多重次に養われていました。兄である家康公の長男 松平信康の仲介で、岡崎城にて父 家康公への謁見が叶ったと伝わっています。小牧・長久手の戦いの和議によって秀吉の養子になり羽柴秀康と名のった後、結城氏に養子に出され、家督を継いで結城姓となりました。関ヶ原の戦い後は越前 福井城主となり松平姓に復姓しました。



結城秀康銅像(福井城跡／福井市)

解答… (4)

問題59

天正13年(1585)、秀吉が登りつめた官職は次のどれでしょうか？

- (1) 征夷大將軍 (2) 関白
(3) 右大臣 (4) 左大臣

解説

豊臣秀吉の天下統一が近くなり、政権を樹立するために相応しい官職が必要とされました。そこで秀吉は、公家の近衛前久の猶子となつて関白となり、太政大臣に就任しました。関白とは天皇を補佐して政治を行う重職で、藤原北家(鎌倉時代に近衛、九条、二条、一条、鷹司の五家に分かれる)の独占職となっていました。秀吉は関白職を武家の棟梁である征夷大將軍に勝るものと見なし、諸大名に天皇への臣従を誓わせることによって、彼らを実質的に自分の家臣としたのです。織田家との主従関係はこれによって逆転しました。



豊臣秀吉銅像(有馬温泉／神戸市北区)
秀吉は「有馬三恩人」として顕彰されている。

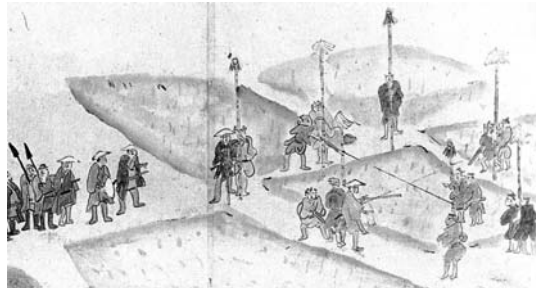
問題60

天正14年(1586)、豊臣の姓を賜った秀吉は、2年後の天正16年(1588)、兵農分離政策のなか、農民の武装を解除する目的で発したのは次のうちどれでしょうか？

- (1) 刀狩令 (2) 生類憐みの令
(3) 惣無事令 (4) 太閤検地

解説

秀吉の兵農分離政策は、戦乱の社会構造を変えるための大きな政策でもありました。不安定な農業生産を安定させるという点では優れていましたが、一方で農村の自治組織を解体させ、一揆を防ぐ目的もありました。そのために農民層から武器を取り上げる「刀狩り」も同時に実施したのです。「惣無事令」というのは戦を起こしてはならないという命令ですが、これは主に秀吉の傘下に入っていなかった関東や東北の大名に向けて発せられたものです。



検地絵図(江戸時代／日本民俗資料館蔵／松本市)

問題61

家康公を臣下とした秀吉は東国の攻略に取り掛かります。天正18年(1590)、関東の北条氏を攻めますが、秀吉の大軍が取り囲んだ北条氏の本拠地はなんという城でしょうか？

- (1) 江戸城 (2) 大多喜城
(3) 忍城 (4) 小田原城

解説

小田原城は北条氏の居城として当時としては珍しい、城下に住む人々を堀でぐるりと囲んだ「惣構え」の規模の大きな城でした。城攻めには大きな犠牲を伴うと考えた秀吉は、推定21万という大軍で陸・海から城を取り囲み、持久戦に持ち込みました。天正18年(1590)の3月下旬から始まったこの小田原攻囲戦は7月上旬までの、およそ3ヶ月間に及びましたが、北条氏政・氏照兄弟の切腹によって決着したのです。大多喜城は後の本多忠勝の居城として、また忍城は映画「のぼうの城」の舞台として広く知られるようになりました。



小田原城外郭図(2001年発掘調査書より)
大規模な城郭を持つ城であったことが伺える。

問題62

家康公の二女 督姫が嫁いだ北条家の5代目当主はだれでしょうか。

- (1) 北条氏直 (2) 北条氏政
(3) 北条早雲 (4) 北条時政

解説

北条氏直は氏政の嫡子であり、祖父 氏康の血を引いた優れた武将だったと伝えられています。家康公は本能寺の変で信長が落命すると、織田家中で次第に力を増してきた秀吉の脅威に備えるため、天正11年(1583)に二女の督姫をこの氏直に嫁がせました。督姫は家康公の初の側室と伝わる西郡局の娘です。督姫と氏直の結婚によって、徳川・北条の二大勢力が協力することとなり、秀吉を強くけん制することになりました。督姫は、後に北条氏が小田原の陣で秀吉や家康公と戦うことになると離縁させられ、後年姫路城主となった池田輝政と再婚しています。



督姫(東京国立博物館蔵)
北条氏直と離縁した後は、姫路城主となった池田輝政に嫁いだ。

問題63

北条攻めの陣中に馳せ参じ、秀吉に臣従した東北の覇者といえはだれでしょうか？

- (1) 大友宗麟 (2) 伊達政宗
(3) 保科正光 (4) 最上義光

解説

秀吉は天正15年(1587)に関東・東北地方の戦国大名たちに向けて「惣無事令」(停戦命令)を出していましたが、伊達政宗はこれを無視し、会津方面で蘆名氏や佐竹氏と戦いを続けていました。しかし、同様にこの命令を聞かず真田氏を攻めた小田原の北条氏が秀吉によって囲まれたことから、危機感を持った伊達政宗は秀吉に追従することを決めたのです。これにより秀吉による討伐は避けられましたが、最大150万石とも目された所領は70万石程度に減らされてしまいました。



伊達政宗平和像(岩出山城跡/宮城県大崎市)
伊達政宗は秀吉の奥州仕置により米沢城から岩出山城に移された。仙台城に移るのは10年余り後のことである。

解答… (2)

問題64

北条氏の降伏後、家康公は秀吉により関東に移封され、江戸城に入りますが、この江戸城を長禄元年(1457)に築いた武将はだれでしょうか？

- (1) 太田道灌 (2) 新田義貞
(3) 北条氏綱 (4) 結城成朝

解説

太田道灌は家康公が生誕する100年以上前に生まれており、15世紀の半ばから後半にかけて活躍した関東の武将です。扇谷上杉氏の家老であり、川越城や岩槻城(いずれも埼玉県)を築いた築城の名人としても有名です。道灌が築いた江戸城は、もともと江戸氏という豪族の居館でしたが、ここに堀や切岸(急斜面の土塁)を設けて、現在の本丸・二の丸程度の広さを持つ城に改築しました。家康公は関東への移封後、この江戸城に入り、日本一の規模を持つ城にまで拡張したのです。



太田道灌肖像
(大慈寺蔵/神奈川県伊勢原市下糟屋)

解答… (1)

問題65

天正18年(1590)、家康公の関東移封に伴い、岡崎城主となった豊臣方の武将で、関ヶ原の合戦では家康公に味方し、戦後、筑後柳川 32万石の大名になったのはだれでしょうか？

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| (1) 加藤清正
かとうきよまさ
たちばなむねしげ | (2) 佐々成政
さつ さなりまさ
たなかよしまさ |
| (3) 立花宗茂
たちばなむねしげ | (4) 田中吉政
たなかよしまさ |

解説

田中吉政は「寛政重修諸家譜」によれば、近江国高島郡田中村の出身とされていますが、近年の様々な調査から浅井郡三川村出身という説が有力となっています。秀吉の甥である羽柴秀次(後の関白 豊臣秀次)の宿老(家老)となり、秀次が尾張国の領主となった時に岡崎・西尾8万石の領主となりました。岡崎が城下町として整備され始めたのはこの時代です。関ヶ原の合戦では石田三成を捕縛するなどの功を挙げ、筑後柳川32万石の太守となりました。



田中吉政石像(岡崎市籠田町)
田中吉政は岡崎だけでなく、近江八幡、柳川の城下町建設を行った。

解答… (4)

問題66

同じく、家康公の関東移封に伴い、浜松城主となった豊臣方の武将はだれでしょうか？ 関ヶ原の合戦には二男 忠氏が家康公に味方して出陣、戦後は出雲富田 24万石の大名になっています。

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------|
| (1) 池田輝政
いけ だてるまさ
みくしまさのり | (2) 加藤嘉明
よしあき
ほり おまはる |
| (3) 福島正則 | (4) 堀尾吉晴 |

解説

尾張国の領主となった羽柴秀次には幾人かの宿老がいましたが、彼らは尾張から駿河にかけて、拠点となる地の城主となり、関東からの守りを固めたと言われています。浜松城の堀尾吉晴もそのうちの一人です。浜松城天守の石垣は吉晴が近江の石積み職人を呼び寄せ造作させたと言われています。尾張国丹羽郡の出生とされ、明智光秀を討った山崎の合戦で活躍、秀吉政権下では「三中老」の一人として、五奉行と五大老の間を取り持つ役職に任じられました。



浜松城石垣(浜松市)
堀尾吉晴が近江から石積み職人(穴太衆)を呼び寄せ築いた石垣と伝わる。野面牛蒡積と呼ばれる手法である。

解答… (4)

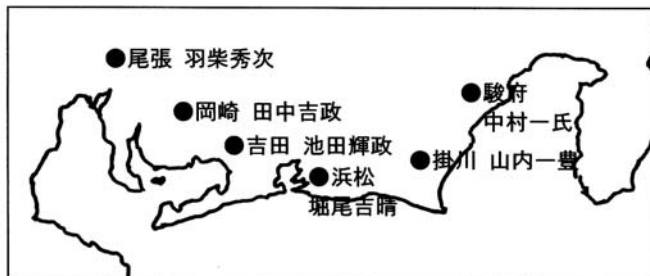
問題67

同じく、家康公の関東移封に伴い、駿府城主となった豊臣方の武将はだれでしょうか？ 関ヶ原の合戦には嫡男の一忠が家康公に味方して出陣、戦後は伯耆米子 17万5千石の大名になっています。

- (1) 浅野幸長 (2) 黒田長政
(3) 中村一氏 (4) 細川忠興

解説

中村一氏も田中吉政や堀尾吉晴とほぼ同様の立場で駿府城の城主となった武将です。ただ、関ヶ原合戦時は東軍に属しながらも一氏自身はすでに死去しており、子の一忠が代わりに出陣、軍功を挙げました。近江国 甲賀の出身とされ、早い時期から秀吉の配下として仕えました。秀吉の政権下では堀尾吉晴と同様に「三中老」に任じられていたとされます。



東海道筋の豊臣大名

解答… (3)

問題68

天正18年(1590)、秀吉は長男 鶴松の死を機に自分の官職を後継者に譲ります。後に高野山に追放され、切腹を命じられることになるその後継者とはだれでしょうか？

- (1) 徳川家康 (2) 豊臣秀次
(3) 豊臣秀頼 (4) 羽柴秀長

解説

妻子や側室、女官たちも含めて全員処刑されるという、悲劇的な最期を迎えた武将です。もともとは秀吉の姉の子であり、当初は三好家へ養子に出されました。小牧・長久手の合戦では徳川軍に敗れましたが、その後の合戦では数々の武功を挙げ、秀吉からの信望も得るようになったと伝えられます。秀吉の養子となり、最後は関白の地位まで登り詰めますが、秀頼が誕生すると次第に疎まれるようになり、最後は高野山に幽閉されて切腹をさせられました。



豊臣秀次肖像

(瑞泉寺蔵/京都市中京区木屋町) 関白秀次の下には殉死した武将たちも描かれている。

解答… (2)

問題69

全国統一を果たした秀吉は、次は海外に領地を求め2度にわたり朝鮮^{ちやうせん}に出兵します。このことをなんといいのでしょうか？

- (1) 応仁^{おうにん}／文明の乱
 (2) 文永^{ぶんえい}／弘安^{こうあん}の役
 (3) 文禄^{ぶんろく}／慶長^{けいちょう}の役
 (4) 保元^{ほうげん}／平治^{へいじ}の乱

解説

第一回目の朝鮮出兵は文禄元年(1592)に行われました。国内を統一した秀吉は、明国にその支配権を拡大しようと考えたのですが、簡単に服属するはずの李氏朝鮮^{りし}の激しい抵抗^あに遭い、また明の援兵も加わって大変な苦戦を強いられることになりました。翌文禄2年にはいったん和睦^{わぼく}をしたものの、朝鮮国との折り合いが合わず慶長2年(1597)には二度目の出兵をしました。慶長3年に秀吉が死去^{でっぺい}したことで折から反対^{かんこう}を唱えていた家康公が撤兵^{てつぺい}を敢行、ようやく終結に至ったのです。



文禄の役、釜山城攻略の図
 (模写／原本は韓国陸軍士官学校博物館)

問題70

次の中で、朝鮮国まで出兵しなかった武将はだれでしょうか？

- (1) 宇喜多秀家^{うきただひでいえ}
 (2) 加藤清正^{かとうけいせい}
 (3) 徳川家康^{とくがわいえ}
 (4) 細川忠興^{ただおき}

解説

文禄の役では家康公も京に上り、肥前名護屋城^{ひぜん}まで出陣しました。この時には自ら^{いさ}が渡海しようとした秀吉を家康公が諫めています。もともと明国への出兵など無謀^{むぼう}なことから、秀吉には反対を唱えていました。隣国との関係を悪化させたくないという強い願いもあったのでしょうか。そして実際に朝鮮国へ渡って戦ってきた将士たちのためにも、再度の出兵^{おもむ}(慶長の役)には強く反対をし、自ら前線の名護屋城へ赴くこともしませんでした。



肥前名護屋城家康本陣跡(佐賀県唐津市)

問題71

近江国坂田郡おうみに生まれ、秀吉つかに仕え天正13年(1585)に治部少輔じぶのしょうぶに叙任じょにんされた武将は次のどれでしょうか？

- (1) 浅野幸長よしなが (2) 石田三成みつなり
 (3) 加藤嘉明よしあき (4) 福島正則

解説

秀吉の家臣には、尾張在住時代から面倒を見て仕えさせた家臣たちと、近江国長浜の城主時代から仕えた家臣たちがいました。前者には加藤清正や福島正則らが、後者では石田三成がその代表格の家臣として秀吉の政権を支えていたのです。彼らは始めからそりが合わず、朝鮮出兵時には武断派・吏僚派りりょうはに分かれて争う関係になってしまいました。秀吉の家臣たちの内部分裂が「関ヶ原」の要因ですが、彼らの出身地域もその遠因となっていたのでしょう。



石田三成像(龍潭寺/彦根市古沢町)

問題72

死期さとを悟った秀吉は豊臣政権を嫡男の秀頼ちやくなんに継つがせるため、政治体制の強化を目指し有力大名による五大老たいらうと直臣じきしんによる五奉行ぶぎやうの制度を定めました。五大老の内、秀吉に代わって伏見城下で政務をとった五大老筆頭ひつとうの武将はどれでしょうか？

- (1) 上杉景勝かげかつ (2) 徳川家康
 (3) 前田利家としいえ (4) 毛利輝元もうりてるもと

解説

これらの制度はより良い政治を目的としたものではなく、幼い秀頼を補佐し、豊臣家の安泰を第一に考えたものとも言えましょう。五大老のうち特に実力者であった前田利家に秀頼の後見役を任せ、政治のことは家康公に任せることで、当面の安泰を図ったのです。ところが五奉行のほとんどは先程も述べた吏僚派であり、武断派かやの武将たちは蚊帳の外に置かれた状況となってしまいました。吏僚派は前田利家を頼り、武断派は家康公を頼ると言う構図ができて上がっていったのです。



徳川家康公像(岡崎城二の丸) 59歳の頃を想定し製作された。五大老筆頭の頃に最も近い家康公像である。

問題73

また、五大老の内、大坂城において豊臣秀頼もりの傅役やく（後見人）として重きをなした武将はだれでしょうか？

- (1) 上杉景勝 (2) 徳川家康
(3) 前田利家 (4) 毛利輝元

解説

秀吉と前田利家は、織田信長に仕えていた頃からの盟友として有名です。秀吉にとっては利家こそが安心して秀頼を任せられる武将だったと言えます。家康公はもともと主の織田信長と対等な関係を持った大名であり、上杉景勝や毛利輝元は「外様」の大名です。秀吉はその才覚を武器に、己の実力一本で天下人にのし上がった人物でしたが、最後まで心を許せる盟友や家臣にはあまり恵まれなかったのかもしれませんが。最晩年の秀吉は子の秀頼が幼かったこともあり、家康公を始めとする諸大名に秀頼を豊臣の後継者として盛り立てるよう、何度も誓紙を書かせました。



前田利家像
(金沢城跡／金沢市丸の内)

問題74

慶長3年(1598)、太閤秀吉けいちょうそして前田利家あいが相次いで死去した後、五奉行の筆頭であった石田三成と対立し、ついには襲撃まで行ったのはどのような武将たちだったのでしょうか？

- (1) 対立する家康公の家臣たち
(2) 豊臣氏に恨みを持つ織田家の武将たち
(3) 朝鮮に出兵できなかった東北の武将たち
(4) 朝鮮に出兵していた武断派ぶだんぱの武将たち

解説

二度にわたる朝鮮出兵は、朝鮮国の人々だけでなく日本の将兵たちにも大きな痛手を残しました。特に加藤清正、福島正則、細川忠興、黒田長政、加藤嘉明、浅野幸長、池田輝政(渡海はしていない)の七将は、後始末を任された石田三成に反感を抱き、その仲裁役でもあった前田利家が死去すると三成襲撃を実行したのです。伏見城(徳川屋敷ではありません)に逃げ込んだ三成でしたが、最後は家康公がその仲裁にあたり、居城の佐和山城に送り届けられました。



加藤清正像
(妙行寺／中村区中村町木下屋敷)
秀吉生誕地内に建てられた加藤清正像。秀吉子飼いの臣であった。

問題75

慶長5年(1600)、五大老のひとりである会津の大名が石田三成と密約をし、政治の責任者であった家康公に反旗を翻しました。それはだれでしょうか？

- (1) 上杉景勝 (2) 宇喜多秀家
(3) 前田利長 (4) 毛利輝元

解説

上杉景勝は文禄の役に際して、秀吉の名代として朝鮮国に渡り全軍の指揮を執りました。その後、五大老のうち小早川隆景が隠居すると、代わりに五大老の職に就きました。秀吉の死後は家老の直江兼続が石田三成と懇意であったことから、反徳川の態度をあらわにし、正月参賀の大坂城出仕を拒んで家康公を愚弄する書状を突き付けました(直江状)。このことがきっかけとなって家康公は会津へ上杉征伐に向かうこととなります。



上杉景勝肖像(上杉神社蔵/米沢市丸の内)

問題76

会津征伐に向かう家康公たちが下野国まで来たとき、石田三成が上方で挙兵しました。福島正則、池田輝政らの豊臣大名たちが、家康公に味方して共に石田三成らと戦うことを決定した評定(会議)を、その地名からなんというのでしょうか？

- (1) 小田原評定 (2) 小山評定
(3) 箱根評定 (4) 伏見評定

解説

会津征伐に関しては、家康公は全ての大名に出陣の号令を下したのですが、実際は各大名の判断に任せていました。事前に三成からの密書を受け取っていた西国大名たちの多くは参加しませんでした。軍を進めながら事態の成り行きを見守っていた家康公ですが、伏見城が三成を中心とする西国大名に囲まれ、城代の鳥居元忠らが玉碎した報を受け取ると、小山(栃木県)で評定(会議)を開き、軍を返して三成らの西軍と戦うことを決定したのです。



小山評定跡碑(小山市中央町)

問題77

前問の評定において、真っ先に自分の居城である掛川城を家康公に提供すると発言し、関ヶ原戦後、その功により土佐20万石の大名に取り立てられた武将はだれでしょうか？

- (1) 黒田長政 (2) 長宗我部盛親
(3) 蜂須賀正勝 (4) 山内一豊

解説

大坂城に入った三成は、まず家康公と行動を共にしている武将たちの妻を人質にとりました。有名な細川忠興の妻ガラシャ夫人が自害したのはこの時です。小山評定では三成に対する怒りが表面化し、真田昌幸を除いた全ての武将が家康公に味方することを表明したのです。その中にあって、掛川城主の山内一豊は自分の城や領地までも家康公に提供することを表明し、家康公を喜ばせたと伝えられています。岡崎城の田中吉政、浜松城の堀尾吉晴らもこれに倣い、城・領地を提供しました。



山内一豊像(高知城／高知市丸ノ内)
関ヶ原の合戦後は高知20万石の太守となった。

解答… (4)

問題78

会津征伐から反転した家康公はじめ東軍は、美濃国関ヶ原で西軍と激突します。このとき、西軍の盟主(総大将)として大坂城に残り、関ヶ原では戦わなかった武将はだれだったのでしょうか？

- (1) 安国寺恵瓊 (2) 石田三成
(3) 宇喜多秀家 (4) 毛利輝元

解説

石田三成は自分が総大将では西国の大名たちを動かすことができないと考え、五大老でもある毛利輝元を総大将に祭り上げました。大坂城に残ったのは、まだ幼い秀頼が大坂城から出なかったためです。三成は西軍の士気を高めるためにも、秀頼を出陣させたかったのですが、母親の淀君が猛反対をしました。そのため、総大将の輝元が秀頼の後見役も兼ねて大坂城に残ったのです。代わりに継養子(本来は輝元の従兄弟)である毛利秀元が関ヶ原に赴き、西軍として南宮山に陣を敷きましたが、毛利一族の吉川広家が家康公に内応しており軍を動かすことはありませんでした。



毛利輝元肖像
(毛利博物館蔵／山口県防府市)

解答… (4)

問題79

次のなかで、東軍に属する武将はだれでしょうか？

- (1) 織田秀信 (2) 黒田長政
 (3) 小西行長 (4) 増田長盛

解説

織田秀信は秀吉が信長の後継者として担ぎ出した、信長の長男 信忠の子です。清洲会議のころは三法師丸と呼ばれていました。秀信は西軍に属し、岐阜城の城主として東軍の前に立ちふさがりましたが、福島正則や池田輝政らの猛攻に遭いあえなく落城、捕縛されました。小西行長は三成と共に西軍の指揮を執った武将、増田長盛は五奉行のひとりとして三成に協力し、関ヶ原の合戦には参加しませんでした。毛利輝元と共に大坂城にいました。黒田長政は福島正則らと共に東軍の中心となって活躍した豊臣恩顧の武将で、戦後は筑前福岡藩52万石の太守となりました。



関ヶ原黒田長政陣跡(岐阜県関ヶ原町)
 「岡山」の陣跡に黒田長政の本陣がある。合戦の烽火をあげた場所である。

解答… (2)

問題80

次のなかで、西軍に属する武将はだれでしょうか？

- (1) 池田輝政 (2) 大谷吉継
 (3) 加藤清正 (4) 京極高次

解説

大谷吉継は三成の盟友でもあり、良き相談相手であったと伝えられています。これは顔に病気(らい病と伝わります)を患った吉継に三成だけは嫌な顔をすることもなく接したからだとも言われています。吉継は当初家康公に従って会津征伐に出兵するつもりでいましたが、三成の説得で西軍に付くことを決めました。関ヶ原の合戦では、その動きに不安があった小早川秀秋の軍勢を牽制していましたが、結局その小早川軍に攻められ、最後は自害をして果てたのです。



関ヶ原大谷吉継の墓(岐阜県関ヶ原町)
 今でもファンが多く訪れ、献花が絶えないという。

解答… (2)

問題81

関ヶ原の合戦の最中、どちらに味方するかはつきりしない西軍の小早川秀秋に対し、家康公はあることをして東軍に味方させました。それはどのようなことだったのでしょうか？

- (1) 家康公が大声で怒鳴った
- (2) 鉄砲を撃ちかけさせた
- (3) 褒美を書いた矢文を送った
- (4) 叔母のおね(秀吉の妻)に説得に行かせた

解説

有名な逸話の一つです。事前に東軍に味方することを約束していた小早川秀秋が、少しも動く気配がないことから、業を煮やした家康公が決断を迫るべく鉄砲を撃ちかけたというお話です。裏切り者として後世に語り継がれることになってしまいましたが、

これは「内応」であり、決して寝返りではないと家康公は断じました。その点、近くにいた朽木正綱などは東軍に寝返りましたが、恩賞を与えるどころかきつく叱責されたと言います。



小早川秀秋肖像(高台寺蔵/京都市東山区)

問題82

合戦の間中、動かずに様子を見ていた島津軍は、終盤にある行動に出ました。どのような行動をとったのでしょうか？

- (1) そのまま静かに降伏し、薩摩の領地を守った。
- (2) 合戦終了後に家康公の本陣に夜襲をかけた
- (3) 敢然と敵中突破を行い、薩摩まで退却した
- (4) 石田三成とともに佐和山城に立てこもった

解説

これも「島津の敵中突破」として後世に語り継がれた有名な逸話です。島津義弘は当初は家康公に従って会津征伐に参加する予定でしたが、伏見城の戦いで鳥居元忠に援軍を拒否されたため、西軍として参戦することになりました。歴戦の将だった義弘は、東軍の勝利を見極めた後、敢然と敵中突破を試み家康公の肝を冷やしました。井伊直政、松平忠吉、本多忠勝らが追跡をしましたが、「すてかまり」という背水の戦法で見事逃げきったと伝わります。



関ヶ原島津義弘陣跡(岐阜県関ヶ原町)

問題83

中山道から上方を目指した秀忠率いる徳川本隊は、信濃国 上田城攻めに手間取って関ヶ原の合戦に間に合うことができませんでした。徳川軍を釘づけにした上田城主はだれだったのでしょうか？

- | | |
|----------|----------|
| (1) 上杉景勝 | (2) 里見義康 |
| (3) 真田昌幸 | (4) 南部利直 |

解説

近年この上田城攻めは家康公の指示であったこと、非常に無理な日程であったことも史料から明らかになっており、功を焦った秀忠が無理に上田城攻めを行ったというのは誤りとの指摘もあります。いずれにしろ、真田昌幸は城郭の造りをうまく利用して徳川軍を苦しめました。昌幸には信之・信繁(幸村)の二人の有名な息子がいますが、嫡男の信之は妻が本多忠勝の娘であったことから東軍に属しています。関ヶ原戦後、昌幸・信繁父子はこの信之の助命嘆願もあり、高野山九度山に幽閉となりました。



九度山の真田庵(和歌山県九度山町)
真田父子配流の地。高野山にほど近い、閑静な場所である。

解答… (3)

問題84

関ヶ原の合戦で家康公に味方した豊臣大名の中で、吉田城主であり、この後に姫路藩の初代藩主になった武将はだれでしょうか？

- | | |
|----------|----------|
| (1) 池田輝政 | (2) 田中吉政 |
| (3) 福島正則 | (4) 細川忠興 |

解説

池田輝政は小牧・長久手の合戦で戦死した池田恒興の二男です。兄の元助もこの戦いで戦死し、輝政は21歳で家督を継いで美濃 大垣城主になりました。その後は次第に秀吉の信任も厚くなり、加増されて岐阜城主となります。さらに家康公の関東移封後は、秀吉の後継者と見られていた羽柴秀次付きの家老となって、三河 吉田城主となりました。北条氏直と離縁した家康公の次女 督姫は、この輝政と再婚しています。関ヶ原の合戦では家康公に味方し、姫路52万石の太守となりました。



池田輝政肖像(鳥取県立美術館蔵)

解答… (1)

問題85

関ヶ原の合戦で勝利した家康公は、味方した東軍の諸将に領地を分け与えますが、家康公がたくさん領地を与えたのはどのような武将だったのでしょうか？

- (1) 徳川家や松平家の一族
- (2) 三河時代から苦勞を共にしてきた家臣団
- (3) 徳川家が治める関東の武将
- (4) 豊臣家の家臣だったのに家康公に味方した武将

解説

関ヶ原合戦後の大名の加増ランキングBEST20で、1位は家康公の二男の結城秀康、3位に四男の松平忠吉、そして20位には徳川四天王のひとり井伊直政が入りますが、残りの17名は全て豊臣の家臣たちです。上位には蒲生秀行(会津)、池田輝政(姫路)、前田利長(加賀)、黒田長政(福岡)、福島正則(広島)、加藤清正(熊本)、田中吉政(柳川)らが名を連ね、家康公が彼らの功を認めながらも、江戸から遠い地に配置している様子が分かります。

関ヶ原合戦後加増大名ランキング10位まで

順位	大名	新領国	新石高	加増高
1位	結城秀康	越前北ノ庄	67万石	46.9万石
2位	蒲生秀行	陸奥会津	60万石	42万石
3位	松平忠吉	尾張清洲	52万石	42万石
4位	池田輝政	播磨姫路	52万石	36.8万石
5位	前田利長	加賀金沢	120万石	36万石
6位	黒田長政	筑前福岡	52.3万石	34.3万石
7位	最上義光	出羽山形	57万石	33万石
8位	福島正則	安芸広島	49.8万石	29.8万石
9位	加藤清正	肥後熊本	52万石	27万石
10位	田中吉政	筑後柳川	32.5万石	22.5万石

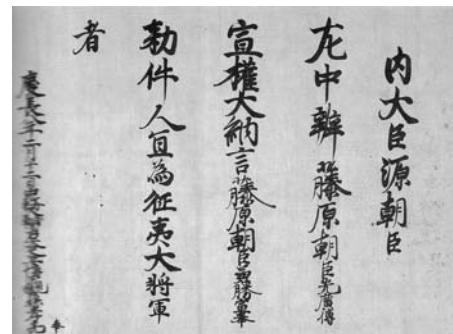
問題86

慶長8年(1603)、家康公は後陽成天皇より、幕府を開くことのできる役職に任じられました。この役職はなんのでしょうか？

- (1) 征夷大將軍
- (2) 摂政
- (3) 関白
- (4) 太政大臣

解説

幕府を開く＝武士の棟梁となることであり、そのためには朝廷内の官職として「征夷大將軍」の称号が必要だったのです。さらに征夷大將軍の称号を得るためには、前例から源氏であることが望ましく、家康公は祖先の源氏を正式に名乗ることとなったのです。武士による政権の歴史を辿ってみると、平清盛(平氏)→源頼朝(源氏)→北条時政(平氏)→足利尊氏(源氏)→織田信長(平氏)→徳川家康(源氏)となり、偶然にも交互になっているのが分かります。



征夷大將軍宣旨(駿府御分物)

問題87

慶長8年(1603)、家康公が幕府を開いた場所はどこでしょうか？

- (1) 江戸 (2) 岡崎
(3) 浜松 (4) 駿府

解説

これは家康公自身の居城がすでに江戸に定まっていたからに他なりません。しかし、江戸が世界一の大都市になるのは、やはりこの地が政治経済の中心となったからです。五街道の整備により全国の物産が集中、町のインフラ整備も進み、人々は平和社会の到来を謳歌したのです。さらに江戸は都市開発のモデルともなりました。家康公によって全国各地の藩主になっていった家臣たちは、善政を施すことを厳命され、機能的な町づくりを進めました。岡崎も浜松も駿府もその例に違わず、城下町としての機能だけでなく、大きな宿場町としても整備され、現在の発展の基礎を築きあげたのです。



江戸城屏風(部分)／国立歴史民俗資料館蔵

解答… (1)

問題88

家康公は將軍職を2年で退いたあと、なんと呼ばれるようになったのでしょうか？

- (1) 大御所 (2) 黄門
(3) 上皇 (4) 太閤

解説

家康公が2年という短い期間で將軍職を退き、秀忠にその任を与えたのは、將軍職は徳川氏が世襲することを天下に示すことにより、次は誰が天下人になるのかわからない混乱の時代から徳川家による安定の時代への転換を図ろうとしたためだと言われます。

將軍職を引退した家康公は大御所となり、駿府に隠居城を構え、様々なブレンを集めて依然として政治を主導していたため大御所政治と呼ばれ、2代將軍 秀忠の江戸政権との二元政治が家康公の薨去まで続きました。ちなみに大御所とは、鎌倉幕府の後期以降、將軍職を退いた前將軍の称号として用いられるようになった尊称で、秀忠も3代 家光への將軍交代後は大御所と呼ばれています。



大御所時代の家康公像 (駿府城／静岡市葵区)

解答… (1)

問題89

大坂城の淀殿と豊臣秀頼母子に仕える大坂方の重臣で、関ヶ原の合戦以降は家康公に協力的な立場で豊臣・徳川の間を取り持ちましたが、大坂の陣の前に家康公との内通を疑われ大坂城を退去、その後は家康公に従い、大和竜田藩主となった賤ヶ岳の七本槍の1人はだれでしょうか？

- (1) 片桐且元 (2) 真田信繁(幸村)
 (3) 柴田勝家 (4) 長束正家

解説

片桐且元は真田幸村などと異なり、あまり歴史上の舞台に登場することのない、地味な存在の武将です。しかしこの人物が大坂の豊臣家と駿府の家康公、幕府の関係を取り持つ重責を果たし続けてきたことを、この機会に知っていただきたいと思います。最後は家康公に付きませんが、豊臣方であって、彼が最も家康公との戦いを望まなかった人物であったと言えます。秀頼も彼を大坂城から追い出した時点で、その命運は決まったと言っても過言ではありません。



片桐且元肖像
 (大徳寺王林院蔵／京都市北区紫野)

問題90

関ヶ原の合戦から14年経過した慶長19年(1614)、豊臣の誘いに応じて配流先の紀伊国九度山から大坂城に入り、大坂冬の陣で出丸を築いて幕府軍をさんざん苦しめた武将はだれでしょうか？

- (1) 大野治長 (2) 片桐且元
 (3) 後藤基次 (4) 真田信繁(幸村)

解説

大坂の陣で大活躍をする真田信繁(幸村)は、この当時すでに50歳前後の、当時としては老齢の域に入っていた武将です。30代半ばで高野山の九度山に流され、命こそ兄の信之や本多忠勝の助命嘆願で救われたものの、困窮した生活を余儀なくされていました。信繁が義姉(信之の妻、本多忠勝の娘)に宛てた手紙が何通か残されていますが、金銭や酒などの無心に加えて、大坂の陣では非戦を唱えていたことも分かっています。状況判断の的確な武将だったのでしょう。



真田信繁(幸村)肖像(長野県上田市立博物館蔵)

問題91

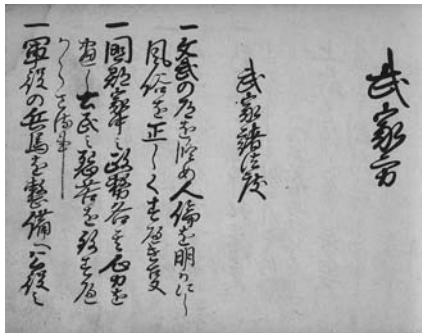
慶長20年(1615)、大坂夏の陣が終わると、慶長という元号が家康公の意向により「平和の始まり」を意味する元号に変わりました。その元号とはなんですか。

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| (1) 享保 <small>きやうほう</small> | (2) 元和 <small>げん な</small> |
| (3) 泰平 <small>たいへい</small> | (4) 平和 |

解説

「元和偃武」という言葉で有名な元号です。

偃武とは武器を偃せる(収めて用いない)という意味で、もう戦をしないという決意を表わしています。大坂の陣を経て、戦乱を企てる勢力を排除した家康公は、元和元年(1615)、幕府を通して一国一城令や武家諸法度を発令し、再び戦が生じる可能性を排除していきます。これらの実行が家康公の最後の大事な仕事となったのです。



武家諸法度(部分)

問題92

近江の国に生まれ、何度も主君を変えたことで知られる外様の戦国武将でありながら、危篤の家康公の枕辺に呼ばれるほど家康公の信頼厚く、2代秀忠、3代家光にも仕えた築城名人で初代伊勢国津藩主となったのはだれでしょうか？

- | | |
|----------|----------|
| (1) 加藤清正 | (2) 蒲生氏郷 |
| (3) 雑賀孫市 | (4) 藤堂高虎 |

解説

築城の名人と言えば、藤堂高虎ですね。宇和島城をはじめ、伊賀上野城や津城など、数多くの築城を手がけてきました。江戸城の石垣普請なども高虎によるものとされています。高虎は近江国の生まれで、浅井氏に仕え、また秀吉の弟である秀長にも仕えましたが、家康公の政治理念に傾倒していたとも言われ、最後は厚い信任を得たと伝えられます。



藤堂高虎像(津城跡/三重県津市丸の内)

問題93

元和2年(1616)4月17日、戦乱の終息^{しゅうそく}を見届けた家康公は、75年の生涯^{しょうがい}に幕^{まく}を閉じました。家康公が亡くなった場所はどこだったのでしょうか？

- (1) 江戸城 (2) 駿府城
(3) 二条城 (4) 伏見城

解説

元和2年(1616)4月17日、家康公は駿府城で亡くなりました。将軍職を退いてから2年後の慶長12年(1607)に大御所として駿府城に移りましたから、最後の10年間を駿府城で過ごしたことになります。この間に大坂の秀頼との問題に対応する傍ら、林羅山^{らざん}を将軍の侍講^{じこう}にしたり、1万冊余りの書を集めて「駿河文庫」を設けるなど学問の普及に努めました。幕府の職制を定めたのもこの期間です。家康公は駿府城で最後の大事な仕事に取り組んだのです。



駿府城二の丸水路(静岡市葵区)
本丸堀と二の丸堀を結ぶ水路。

問題94

家康公の遺言^{ゆいごん}により、遺体は駿河の久能山^{ひょうち}に葬り、江戸の増上寺^{そうじ}で葬儀^{そうぎ}を行い、三河国の大樹寺^いに位牌^{はい}を納めました。そして一周忌^{いっしゅうき}が過ぎたら、小さな堂^{どう}を建てて勸請^{かんじゆ}せよ(神として祀^{まつ}りなさい)と家康公が遺言した場所はどこだったのでしょうか？

- (1) 神田明神^{かんだみょうじん} (2) 鶴岡八幡宮^{つるがおかほちまんぐう}
(3) 日光東照宮^{にっこうとうしやうぐう} (4) 富士浅間神社^{ふじせんげんじんしゃ}

解説

家康公の遺言に登場する久能山と大樹寺、増上寺と日光東照宮は大変興味深い位置関係にあります。まず、西に向けて葬^{ほうむ}られた久能山の真西には岡崎の大樹寺が、増上寺の真北には日光東照宮が位置しています。そして久能山から富士山を通したその先に日光東照宮があるのです。家康公は古来から伝わる陰陽^{おんみやう}五道思想を自分の死に表わそうと考えたのではないかと考えられています。魂は死なず、恒久の平和を見続けるという意志の表れなのでしょう。陰陽思想の影響を強く受けている。



日光東照宮陽明門(日光市山内)

鳥居の中心と陽明門を結んだ先に北極星が来るように設計されている。陰陽思想の影響を強く受けている。

問題95

家康公より3歳年少で、家康公が駿府人質時代に同じく人質として隣に住んでいて親交があったと言われ、一時は秀吉により高野山に蟄居を命じられたものの、子孫は明治まで続く河内国狭山藩主となった武将はだれでしょうか？

- (1) 今川氏真 (2) 里見忠義
(3) 真田信之 (4) 北条氏規

解説

難しい問題です。家康公が人質として駿府の屋敷にいたころ、隣の屋敷にいたのが北条氏康の五男、北条氏規でした。北条氏の子供も駿府に送られていたのです。当時の今川義元の力が計り知れます。氏規は小田原の陣ではわずか300の兵で伊豆韮山城を守り善戦しました。家康公に強く勧められて降伏。北条氏直に従って高野山に流されますが、後に狭山城主として復活を許されます。幼少のころよりの家康公との親交が、最後まで続いたこととなります。



狭山陣屋跡(大阪府狭山市)
子孫が藩主を務めた狭山藩庁跡。

解答… (4)

問題96

江戸時代を通じ、在城中に幕府の要職に就いた者が多く「出世城」と呼ばれるようになった城はどこでしょうか？

- (1) 大坂城 (2) 岡崎城
(3) 駿府城 (4) 浜松城

解説

浜松城を居城とした家康公に始まり、堀尾吉晴も大きく加増されて出雲富田24万石に出世しました。天守閣に展示してある資料からも、江戸時代を通じて多くの大名たちが浜松城主を経て幕府の要職(松平乗寿はじめ老中5名、大坂城代2名、京都所司代2名、寺社奉行4名※兼任を含む)に就いたことが分かります。天保の改革で有名な水野忠邦も、自ら願い出てわざわざ25万石の肥前国唐津藩から15万石の浜松藩へ移っており、その結果幕府の要職に就き最後は老中にまで出世しました。



飛躍期の家康公像(浜松城/浜松市中区)
出世城の原点はやはり家康公。壮年期の勇ましい姿。

解答… (4)

問題97

家康公は遺訓と遺言を後世に残していますが、遺言の中に表された有名なことばは、次のうちどれでしょうか？

- (1) 難波のことも、夢のまた夢
- (2) 人生50年 下天のうちは比ぶれば 夢まぼろしの如くなり
- (3) 天下は一人の天下にあらず、天下は天下の天下なり
- (4) 浮世の夢は暁の空

解説

「本光国師(金地院崇伝)日記」の中に記されている家康公の「遺言」には、為政者の政治哲学にかかわる貴重な教えが含まれています。家康公は早くに秀忠に將軍職を譲り、徳川氏の世襲を明らかにしました。しかし同時に、決して権力の座に執着することなく、万民の安寧を第一に求めたのです。徳川將軍の政道がその理にかなわず、多くの民が苦しむようであれば、誰であろうとその任に相応しい者に代わりなさい、と言い切っています。政治家としての家康公の姿勢が滲み出た名言です。



家康公遺言碑(岡崎城本丸)

問題98

家康公が駿河国井川から、毎秋、駕籠に乗せて駿府城まで運ばせた道中行事が現在でも継承されています。この行事を何道中というのでしょうか？

- (1) うなぎ道中
- (2) お茶壺道中
- (3) しじみ道中
- (4) みそ壺道中

解説

静岡の名産と言えばやはりお茶。大御所 家康公が愛飲したと伝わるのが本山(ほんやま)茶です。春に茶壺へと詰められ、標高1200メートルの冷涼な井川お茶蔵にて保存、熟成されたお茶は、秋になると駕籠に乗せられ、駿府城内の家康公の元に届けられたと伝えられます。その故事に倣い、毎年10月の終わりに井川からお茶壺道中行列を行ない、久能山東照宮で「口切りの儀」(茶壺を開け、お茶の葉を取りだす行事)を行っています。



久能山東照宮へ運ばれる「お茶壺」(静岡市駿河区)

問題99

家康公が駿河の国で好んだものは、一が富士山、二が鷹いちふじにたか（一富士二鷹）と云われますが、三番目にあげられる野菜は何でしょうか？

- (1) きゅうり (2) とまと
(3) なすび (4) わさび

解説

「一富士、二鷹、三なすび」、家康公の駿府在住時の好物として知られています。日本一の名峰富士山、その美しさは昔も今も変わらないのでしょうか。2013年には世界遺産にも登録されました。家康公は鷹狩りを大変好んだと伝えられますが、遊びとしてではなく、健康維持と家臣団の訓練を兼ねて頻繁に行ったようです。三番目の好物は「なすび」です。

意外な感じがしますが、質実剛健ひょうぼうを標榜する家康公らしい好物とも言えます。久能山東照宮の本殿下に、奉納された見事ななすが植えられています。



三保海岸からの富士山(静岡観光コンベンション協会)

問題100

久能山東照宮の拝殿く のうさんとうしょうぐう はいでんの正面には、家康公が「命の尊とうとさ」を私たちに伝えるための彫刻ちようこくがあります。それはどんな彫刻でしょうか？

- (1) 「司馬温公し ば おんこう かめの甕割り」の彫刻
(2) 自らの「みずかしかみ像」の彫刻
(3) 「聖獣 獺せいじゆう ぼく」の彫刻
(4) 見ざる、聞かざる、言わざるの「さんえん三猿」の彫刻

解説

司馬温公は中国北宋時代(日本の平安時代末期)の儒学者です。本名は司馬光。温公は温国公の略称で、中国の爵位を表わしています。多くの学者や政治家などから崇敬を集めた人物で「資治通鑑し じ つ かん」を著したことで有名です。家康公は「貞観政要じん せい しよう」と同様に愛読し、政治の心得を学んだのです。「甕割り」の話は、ある少年の友達が、遊んでいて誤って高価な甕の中に落ちてしまった時、その少年はためらうことなく甕を割り、友達を助けたという内容です。命よりも大切なものはないという教えを説いています。



久能山東照宮「甕割り」の彫刻(静岡市駿河区)